

選択的評価事項に係る評価

自己評価書

平成19年6月

東京工業高等専門学校

目 次

I	高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	選択的評価事項A 研究活動の状況	5
IV	選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	43

I 高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

(1) 高等専門学校名

東京工業高等専門学校

(2) 所在地

東京都八王子市

(3) 学科等の構成

学 科：機械工学科，電気工学科，電子工学科，情報工学科，物質工学科

専攻科：機械情報システム工学専攻，

電気電子工学専攻，物質工学専攻

(4) 学生数及び教員数

(平成19年5月1日現在)

学生数：学 科 1 0 1 8 人

専攻科 5 8 人

専任教員数：80人

助手数：4人

2 特徴

東京工業高等専門学校（以下本校という）は、1965年4月に機械工学科、電気工学科、工業化学科の3学科で発足した。その後、1970年4月には電子工学科、1988年4月には情報工学科が設置され、1993年4月には工業化学科が物質工学科に改組され、現在の5学科体制となった。ものづくり技術者の育成を使命とする本校は、設立当初から、実験実習を重視した教育により、優れたものづくり技術者を育成し、卒業生は、製造業を中心とした産業界をはじめ、社会から高く評価されている。

大学卒業生が「知恵」のみを持ったいわゆる T 型人間であるといわれているのに対し、本校卒業生は「知恵と技」の両方を持ったいわゆる II 型人間である。企業側では、5年間一貫教育を受けて、若くて「知恵と技」の両方を持った実践型のものづくり技術者となる本校卒業生に大きな期待を寄せており、近年の不況にもかかわらず高い求人倍率を維持する要因となっている。

2003年4月には、生産技術・技術開発の場における技術の高度化、多様化、複合化に対応できる人材の育成に対応するため、準学士課程の5年間の上に、専攻科が設置された。以来、より高度な専門の科学技術を身につけた優れたものづくり技術者を育成し、専攻科における特別研究は多くの賞を受賞し、専攻科修了生は、製造業を

中心とした産業界をはじめ社会から高く評価されている。

本校は、国際交流にも力を入れている。1983年には外国人留学生の受け入れを開始し、1984年には大韓民国専門大学研修生の受け入れを開始し、1985年には外国人受託研修員の受け入れを開始した。

さらに、国際交流の一環として学生交流にも力を入れている。本校では、1984年からオーストラリアの大学（Monash University College）と学生交流を実施している。この交流は20名程度の学生が1年おきに互いの学校を訪問しあい、10日間から2週間の日程でホームステイを中心に滞在し、授業や各種行事に参加しながら学生相互の親睦を図るというものである。1999年には、釜山情報大学との国際交流協定が締結され、10名程度の学生が相互訪問し、ホームステイをしながら数日間にわたって交流をし、渡韓の際は研究成果を発表している。さらに、2000年からは、フィンランドの大学（Helsinki Polytechnic）と学術交流をしている。この交流では、毎年数名の学生が来校し、3ヶ月間にわたり卒業研究と同様の研究を行っている。

近年、ゆとり教育の影響から、新入生の学力の低下が顕著になってきた。同時に、中学校を卒業した時点では、自分の適性にあった志望学科を決めることが難しい状況が生まれてきた。このため、本校では、2005年度からくり相当入試を実施し、2年進級時に学科を選ぶことができる制度を発足させた。1年次は基礎学力の充実を図るための共通教育と共に、各学科の実施するものづくり実験を経験させる。このものづくり実験を経験することにより、学生は、広範な工学分野の基礎実験を経験すると同時に、自分の適性にあった学科を選択するための情報を得ることができる。さらに、1年生の時期は「自学」「自立」「協同」の態度を養成する為に、授業前の毎日のショート HR などきめ細かく担任指導を行っている。ショート HR の時間を利用した朝シャド（英語のシャドウイング）も、専攻科修了時の TOEIC550 点を目指した取り組みのひとつとして実施されている。

一方、地域社会との連携を図るため、1982年にはソフトエネルギー教育研究施設（現在は2004年に地域連携テクノセンターに改名）が設置され、1993年に技術懇談会を発足させた。本校は研究活動も活発であり、全教員の63.8%が博士号を取得している。

II 目的

1. 東京工業高等専門学校の使命(学則に定められた「目的」)

本校の使命は、学則第1章第1条に「本校は、教育基本法（昭和22年法律第25号）の精神にのっとり、かつ、学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」と定められており、専攻科の使命は、学則第10章第43条に「専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、更に精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導することを目的とする。」と定められている。

2. 教育研究活動を実施する上での基本方針（「本校の教育方針」）

本校では、学則に定められた使命に沿って、豊かな教養と高度の専門知識を身につけた実践的のものづくり技術者の育成を目指している。技術者、つまり、エンジニアの語源は、古代ラテン語の「ingenium」であって、これは「天才、創造者」を意味した。中世に「ingeniare」となって、これが英語の「engineer」、ドイツ語の「Ingenieur」、フランス語の「ingenieur」の共通語源となった。英語の「engineer」は英和辞典によると（事の）巧みな処理者、動詞的用法では、事を巧みに処理するとある。したがって、「エンジニア」とは「天才であり、物を創造することのできる人であり、どんな困難なことでも最大の工夫を凝らして巧みに問題を処理できる人となる。そして、そのためには常に自分で生涯学習を続ける人である。」といわれている。

本校では、このような人物を育成するための「教育方針」として、次のことをあげている。「どのような局面にも対応できる柔軟な心といかなる困難も乗り越えうる強固な意志とあらゆる試練に耐えうる健全な身体とを持ちしかも人間として好ましい味と深みとのある人柄であり 必要な学問と技術との基礎を充分身につけていて いつでもどこでも自由に应用できる能力があり 長い一生を通じて限りなく伸び続けて行くことのできる潜在力のある人物を育成する」これが、本校の教育研究活動を実施する上での基本方針である。

3. 養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等（「学習・教育目標」）

3-1 準学士課程の学習・教育目標

本校準学士課程における教育では、2に掲げた本校の教育方針に基づいて、ものづくりのできる技術者の育成を目的とし、大枠として、次に掲げる特徴を持つ技術者の育成を目標とする。

- (A) 自律的な行動規範を身につけた技術者
- (B) 異文化理解とコミュニケーション能力（国際性と語学力）をもつ技術者
- (C) 基礎学力と専門分野学力（もの作りの知恵、類推力、段取り力）を修得し、グループ活動における協調性とリーダーシップを身につけた技術者
- (D) 継続的な自己啓発能力（学び続ける力）を持ち、社会の変化に対応できる力を身につけた技術者

3-2 専攻科課程の学習・教育目標

本校の専攻科は、5年間の準学士課程での教育の基礎の上に立ち、より高度な専門知識および技術を教授し、もって地域社会はもとより国際社会においても活躍できる実践的かつ創造的な技術者の育成を目指し、次の4項目を達成すべき基本的な成果とする。

- (A) 技術と地球環境保全との関係を理解し、技術者に求められる危機管理・安全確保に関する倫理観と的確な行動規範を身につけた技術者
- (B) 日本語及び英語によるコミュニケーション力を身につけ、国際的に活躍しうる能力を持った技術者
- (C) 基礎学力の上に、実践力、創造力、研究開発能力を身につけた技術者
- (D) 生涯にわたる自己啓発能力や健康管理能力及び社会の変化に的確に対応できる柔軟性を身につけた技術者

尚、各専攻ではこれらの学習・教育目標を達成するための、より具体的な目標をかかげている。

4. 学科、専攻の教育目標

4-1 準学士課程共通教育（一般科目）の教育目標

- (A) 技術者と人や社会との関わり、自国および世界各国の歴史・文化を理解し、地域社会から人類の福祉まで幅広く考える能力を育成する。
- (B) 日本語による論理的な記述力、討議・発表力などのコミュニケーション能力、ならびに英語によるコミュニケーション基礎力を育成する。
- (C) コンピュータ利用技術、応用数学、応用物理、専門領域に関する基礎知識を身につけ、それらを応用する能力を育成する。
- (D) 自主的・継続的に学習し、将来にわたって自己のレベルを絶えず向上させることのできる能力を育成する。
- (E) 健康管理ができる能力を育成する。
- (F) 与えられた課題に対し、与えられた制約のもとに、計画的に実験、研究などの作業を進め、期限までにまとめる能力を育成する。

4-2 機械工学科の教育目標

- (A) 機械工学に関わる基礎学力を備え、現実の問題に応用することができる能力を育成する。
- (B) 機械システムの発案から設計および製作までを行うことができる能力を育成する。
- (C) 機械工学と電子・情報工学の両者に関わる基礎学力にもとづいて、メカトロニクスを体現した機械システムを設計・製作できる能力を育成する。

4-3 電気工学科の教育目標

- (A) 電磁気学、電気回路、デジタル回路、情報・通信、電子物性・デバイス、エネルギー・制御とそれらの応用分野に関する専門知識を習得し、それらを問題解決に応用できる能力を育成する。
- (B) 電気工学とそれを利用したシステムに関する専門知識を習得し、システムの経済性、信頼性、社会および環境への影響を配慮しながらシステムの課題に取り組む能力を育成する。
- (C) 「ものづくり」の視点から、効果的に、電気工学に必要な実験技術を習得させる。

4-4 電子工学科の教育目標

- (A) 「読み・書き・計算」の基本的スキルの育成を重視し、講義や演習、実験・実習での反復練習を通して基礎学力を養い、自然科学や電子工学の基礎を修得できる。
- (B) 「ものづくり」という視点をとり入れ、自ら設計・製作に必要な電子工学の基礎知識を調査し、根気強く学習に取り組む姿勢を身につけ、基本的な実験技術を修得できる。
- (C) 「材料・デバイス」、「回路・通信」、「情報・制御」の基礎知識を習得できる。

4-5 情報工学科の教育目標

- (A) コンピュータ・ネットワーク利用に関する幅広い知識を身に付け、様々な機器・ソフトに柔軟に対応できる技術者を育成する。
- (B) 情報通信技術の細部にわたる基本動作原理の習得により、最先端技術の本質的原理をより深い専門的立場で理解できる能力を身に付けた技術者を育成する。
- (C) 基礎数学を基盤とした制御理論の役割を理解し、それらを様々な開発機器に応用できる技術者を育成する。
- (D) 情報工学における知識情報分野の重要性と社会に与える影響力を理解し、それらの基礎技術を様々な開発分野に応用できる技術者を育成する。

4-6 物質工学科の教育目標

- (A) 化学及び化学技術に関する基礎学力及び応用能力を身につける。
- (B) 洞察力と研究心に裏打ちされた優れた実験技術を身につける。
- (C) 化学技術や化学物質が地球環境や社会に及ぼす影響を理解し、技術者としての責任を自覚できる。

Ⅲ 選択的評価事項A 研究活動の状況

1 選択的評価事項A「研究活動の状況」に係る目的

東京工業高等専門学校は、建学当初より、実践的ものづくり技術者の養成を目標に掲げてきた。また、高等専門学校設置基準第2条の2には、「高等専門学校は、その教育内容を学術の進展に即応させるため、必要な研究が行われるよう努めるものとする。」と定められている。一方、2004年4月の独立行政法人化に伴い、教育研究が本務のひとつに挙げられた。同時に、独立行政法人国立高等専門学校機構法には「外部との共同研究や地域産業との連携」「機構以外から委託を受け、または、これと共同して行う研究を実施すること」と規定されている。

これらに対応して、また、本校の研究活動の歴史にかんがみ、東京工業高等専門学校の研究活動における目標は次の4つに大別される。

(1) 地域社会と連携し、研究を通して地域産業に貢献する。

地域産業は本校の研究力を必要としている。本校の施設設備を利用した研究、地域企業と連携した研究を通して、本校の研究力を地域産業に還元することが求められる。この目標は、独立行政法人国立高等専門学校機構法の趣旨に沿うものである。この目標を実現するためには、基準Bの正規課程の学生以外に対する教育サービスを通して、地域との連携を図ることも大切である。

(2) 外部機関との共同研究・受託研究を推進する。

外部機関との共同研究・受託研究は、独立行政法人国立高等専門学校機構法の趣旨に沿うものである。外部機関との共同研究・受託研究は、東京高専の社会的評価を高めるために役立つと共に、財務上の基盤を確立するためにも推進することが求められる。

(3) 授業改善に資するため、教育研究を推進する。

教育機関としての責務を果たすためには、教育改善を進めるための教育研究は必須のものである。本校では、伝統的に多くの教育研究がなされているが、更に推進していくことが求められる。今後は、首都にある国立工業高等専門学校として、高等専門学校全体の教育を研究する際、中心的役割を果たすことが求められる。

(4) 学術の発展に寄与する研究を推進する。

この目標は、「教育内容を学術の進展に即応させるため、必要な研究が行われるよう努める」という高等専門学校設置基準の趣旨に沿って推進することが求められる。それぞれの分野で、学術の発展に寄与する研究を推進することが、教育内容を学術の進展に即応させることに結びつくと考えられる。

以上の目標に従って、地域社会との連携を深め、教育改善を行っていくことが、東京工業高等専門学校の教育力・研究力を高めることにつながり、東京工業高等専門学校の社会的意義を高めていく上で重要である。

2 選択的評価事項A「研究活動の状況」の自己評価

(1) 観点ごとの分析

観点A-1-①： 高等専門学校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

(観点到る状況)

本校研究目標の(1)を達成するために、地域連携テクノセンターと技術懇談会が設置されている。

地域連携テクノセンターは、民間機関等との共同研究、受託研究や、民間機関等に対する技術相談、技術支援を目的としたものであり、学校組織内での位置づけは資料A-1-①-1の通りである。事務組織としては研究協力係が主として、とりまとめを行っている。地域連携テクノセンターの概要は資料A-1-①-2の通りであり、委員会規定は資料A-1-①-3のようになっている。地域連携テクノセンターの研究設備および使用ルールは資料A-1-①-4、資料A-1-①-5の通りである。また地域連携テクノセンターの活動概要は資料A-1-①-2にも示されている。

技術懇談会の会則は資料A-1-①-6のように定められており、各技術分野における企業との情報交換や、本校の研究テーマ、共同研究に関する企業との意見交換などを目的としたものである。技術懇談会は、近隣の企業を中心に約40社の会員で構成されており(資料A-1-①-6)、本校および企業の役員で運営にあたっている(資料A-1-①-7)。また、技術懇談会の事業内容の例は、資料A-1-①-8の通りである。

また(2)の目的を達成するため、本校組織内における共同研究・受託研究も盛んに行われている。共同研究・受託研究の受入は、資料A-1-①-9の地域連携テクノセンター委員会において、共同研究取扱い規則(資料A-1-①-10)に基づいて行っている。また、(3)(4)の目的を支援するために、講演会・研究会なども開催されている。最近の例としては、技術懇談会等が主催となつて行った研究会(資料A-1-①-11)や、特別教育研究経費で実施した研究成果報告会(資料A-1-①-12)などがある。研究テーマ一覧は現地閲覧資料とする(現地閲覧資料22)。

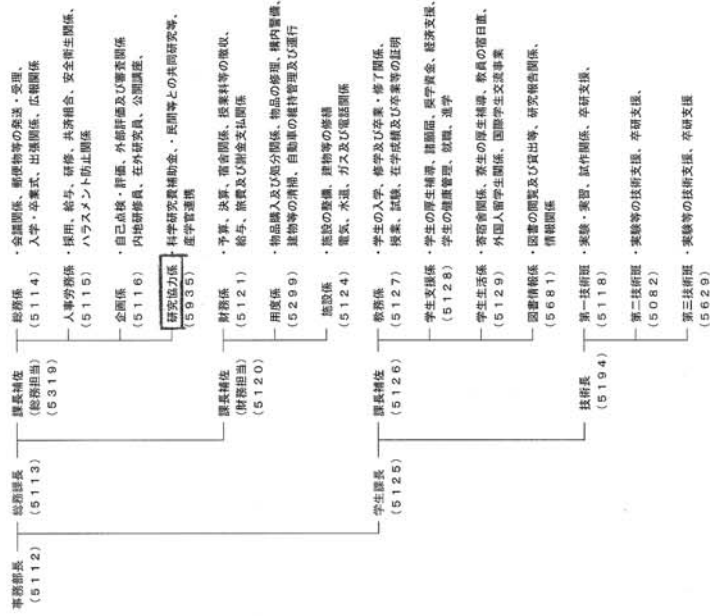
さらに、これらの研究等を支援するために、図書館では、蔵書検索システム、文献検索サービス、文献複写(入手)サービスも提供されている(資料A-1-①-13)。

(分析結果とその根拠理由)

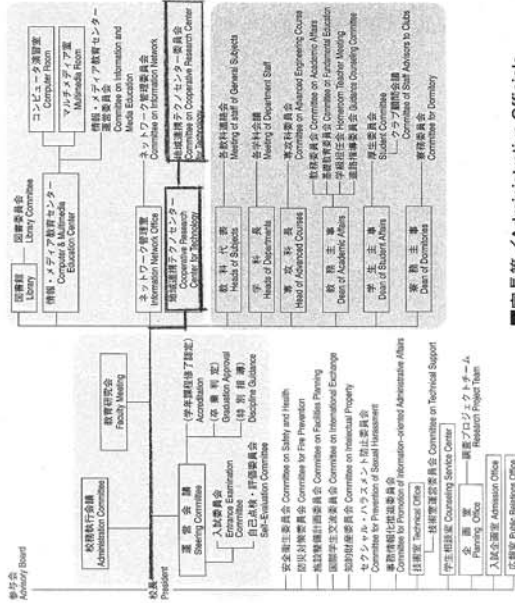
研究活動に関する目的を達成するため、地域連携テクノセンター・技術懇談会が設置され、共同研究・受託研究や技術相談、技術支援等の体制が整備されており、実際に機能している。これらは研究協力係が中心となつて運営しており、また研究支援体制としては図書館の文献検索・文献複写サービスなどが整備され、機能している。また、講演会・研究会も開催されている。

以上により、研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能している

事務運営組織図



■運営図/Chart of Administration



■室長等 / Administrative Officials

図書部長 / Director of Library	津田 謙 / Mr. TSUDA, Kyoshi
情報・メディア教育センター長 / Director of Computer & Multimedia Education Center	横山 繁盛 / Dr. YOKOYAMA, Shigenori
コンピュータ教育部長 / Head of Computer Room	横山 繁盛 / Dr. YOKOYAMA, Shigenori
メディア教育部長 / Head of Multimedia Room	横山 繁盛 / Dr. YOKOYAMA, Shigenori
ネットワーク管理部長 / Head of Information Network Office	津島 隆治 / Mr. TSUJIMA, Ryuji
情報ネットワークセンター長 / Head of Cooperative Research Center for Technology	北 茶 穂 之 / Dr. KITAHORI, Nanyuki
学生相談室長 / Head of Counselling Service Center	古 屋 正 徳 / Mr. FURUYA, Masatoshi
企画課長 / Head of Planning Office	佐 藤 誠 隆 / Mr. SATO, Yoshitaka
技術室長 / Head of Technical Office	津 田 謙 己 / Mr. TSUDA, Kenji
入試課長 / Head of Admission Office	Dr. FURUDA, Naosumi
広報課長 / Head of Public Relations Office	Mr. SATO, Yoshitaka
	津 田 謙 / Mr. TSUDA, Kyoshi

■常勤職員の現員 / Present Numbers of Staff

校長 / President	1
教授 / Professors	35
助教授 / Associate Professors	34
講師 / Lecturers	2
助手 / Research Associates	7
技術職員 / Technicians	16
事務職員 / Administrative Staff	36
看護師 / Nurse	1
合計 / Sum Total	132

(出典 学校概要等)

Tokyo National College of Technology Cooperative Research Center for Technology

国立東京工業高等専門学校 地域連携テクノセンター

「これが知りたい」「一緒にやりたい」「何とかしたい」
企業の皆様が抱える様々な技術的問題に本校の設備や知的資源を提供して、一緒に解決します。

- 技術相談
- 共同研究
- 受託試験
- 受託研究



地域連携テクノセンターの活動

イベント参加



産学公連携技術交流会、多摩工業交流会などのイベントに参加しています。

ミシンコ有償講座



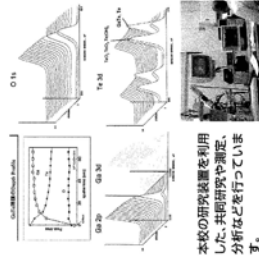
生物検定法、公開講座(ミシンコ向け)などで利用するミシンコを有償で提供しています。

研究装置受入



研究装置の寄贈を受けました。(写真が設置されたエリカクラスERA-8000で撮影した魚の1/3D画像)

受託試験・共同研究



本校の研究設備を利用した、共同研究や測定、分析などを行っています。

INFORMATION

地域連携テクノセンター

〒198-0997 東京都八王子市市田町1220-2

東京工業高等専門学校

専任産学連携コーディネーター TEL・FAX 042-668-5274

事務担当(総務課研究協力係) TEL 042-668-5935 FAX 042-668-5090

* 社庫(社外)料金はHPをご覧ください。コーディネーター又は事務局までお気軽にお問い合わせください。

<http://www.tokyo-ct.ac.jp/>

A-1-①-1
資料A-1-①-3

東京工業高等専門学校地域連携テクノセンター委員会規則

制定 平成17年12月1日

(趣旨)

第1条 この規則は、東京工業高等専門学校内部組織運営規則第7条第3項の規定に基づき、東京工業高等専門学校地域連携テクノセンター委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、東京工業高等専門学校地域連携テクノセンター（以下「センター」という。）に関する次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 民間機関等との共同研究、受託研究等の促進に関すること。
- (2) 民間機関等に対する技術相談及び技術協力に関すること。
- (3) 産学公連携事業に関すること。
- (4) 地域連携テクノセンターを利用した本校の教育研究活動の推進に関すること。
- (5) 地域連携テクノセンターの施設・設備の利用計画に関すること。
- (6) その他センターの管理運営に関すること。

2 審議結果は、校務執行会議に報告し、必要に応じ議を経なければならない。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 副校長
- (4) 教務主事
- (5) 専攻科長
- (6) 教員 若干名
- (7) 庶務課長
- (8) 技術職員 若干名
- (9) その他校長が必要と認めた者

(任期)

第4条 前条第6号、第8号及び第9号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

2 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めた場合は、委員以外の者を会議に出席させ、その意見を聴取することができる。

(事務)

第7条 委員会の事務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成17年12月1日から施行する。
- 2 この規則施行後最初の第3条第6号、第8号及び第9号の委員の任期は、第4条の規定にかかわらず平成18年3月31日までとする。

資料A-1-①-4

地域連携テクノセンター装置使用ルール

	ESCA	XRD	光造型機
予約方法	Hotbiz	Hotbiz	Hotbiz
鍵	中野・雑賀	城石・雑賀	(福田)・藤野
本科生の利用	不可 (教員立合ならば可)	不可	不可 (教員立合ならば可)
専攻科生の利用	可 (指導教員が利用を認めた者)	可 (指導教員が利用を認めた者)	可 (指導教員が利用を認めた者)
学外者の利用	不可	不可	不可 *1
その他管理上の注意			パソコンA 光造型機 パソコンB CAD作業 用 (別途予約可)
試験料金 (受託試験)	1試料1視野 9,000円 1視野増す毎に 1,500円 深さ方向分析 25,000円～	測定1試料あたり 5,000円 定性分析1試料あたり 10,000円	運転1時間あたり 2,800円 CADデータ作成1時間あたり 10,000円
試験料金 (学内利用)	無料 原則として、試料持参 者が測定する	無料	運転1時間あたり 400円(樹脂代) CADデータ作成1時間あたり 10,000円 専攻科実験無料

*1本学より籍を受けた者は、立ち会いのもと、利用

(出典 地域連携テクノセンター資料)

資料A-1-①-5

地域連携テクノセンターの研究設備

地域連携テクノセンターの研究装置一覧です。受託試験のお申し込み方法は本校HPをご覧ください。

装置	会社名 型番	試験内容	受託試験料金
ESCA-光電子分光 (XPS、UPS、AES) 複合分析装置	アルバック・ファイ(株) Model5600	試料表面から数ナノメートルの極表面近傍の定性、定量分析が可能。 アルゴンスパッタを用いた深さ方向分析も可能。	1試料1視野 9,000円 1視野増す毎に 1,500円 深さ方向分析 25,000円～
X線回折装置	ブルカー・ エイエックスエス(株) D8 ADVANCE	粉末や金属片などの試料にX線をあて、回折線を検出することにより測定する。 測定データを解析することにより、定性分析を行うことができる。	測定1試料あたり 5,000円 定性分析1試料あたり 10,000円
光造形装置	(株)デーメック SCS6000	試作品製造	運転1時間あたり4,000円
電子線三次元粗さ解析装置	(株)エリオニクス	(株)エリオニクスから寄贈 平成19年3月稼働予定	

センター以外の東京高専の研究設備の一部です。他の装置・試験料金等についてはお問い合わせください。

装置	会社名 型番	試験内容
万能材料試験機	東京衛機(株) 引張り試験機(30tonf)	金属材料の引張試験機 通常のJIS丸棒4号試験片を使用して引張試験が可能
レーザラマン分光光度計	日本分光(株) NRS-3000	シリコンやカーボンなどの対称性の高い振動がラマン分光で検出されます。試料をそのままの状態でも測定可能で顕微システムでは約1μmスポットで測定できます。
電子スピン共鳴測定装置	日本電子(株) JES-TE100	不対電子を含む試料を数千ガウスの磁場中において、不対電子のスピンの変移に伴うマイクロ波の吸収による共鳴現象を観測します。
可視分光光度計	(株)島津製作所 UV-2450	石英基板上に堆積した薄膜の透過率測定、及び不透明基板に堆積した薄膜の反射率測定(相対反射率)を測定する。 透過率スペクトルから光学吸収端を見積もることができる。
低雑音プローバ 半導体パラメータアナライザ LCRメータ	ベクターセミコン製プローバ アジレントHP4156C アジレント4284A	LSIチップ上の半導体デバイスの特性や各種特性が高精度に評価可能。
薄膜X線回折装置	日本電子(株) JDX-3531	薄膜などの試料にX線を照射し、回折線を検出することにより結晶構造を測定する。入射角が低角のため表面付近の結晶構造を測定し、定性分析を行うことができる。
各種バイオアッセイ装置 (急性毒性試験)		・化学物質の生態毒性試験(魚類・甲殻類・藻類・その他)・各種排水、土壌中の化学物質の生態毒性試験(魚類・甲殻類・藻類・その他) ・微生物を用いる変異原性試験・哺乳類細胞を用いる細胞毒性試験
紫外・可視吸光度計	(株)島津製作所 UV-1200	・各種公定分析による化学物質の濃度の定量(実施可能物質:亜硫酸イオン、アルミニウム、アンチモン、アンモニア、硫酸酸化物、陰イオン界面活性剤、塩化水素、塩素、COD、カドミウム、p-クレゾール類、クロムまたはその化合物、コバルト、残留塩素、シアン化合物、臭化水素イオン、臭素、硝酸イオン、硝酸性窒素、亜硫酸イオン、全窒素、タンガス、ア、鉄、銅、鉛、ニッケル、ヒ素、セレン、砒素、フェノール類、アジ化水素、ベンゼン、ボウ素、ペンタクロロフェノール、ホルムアルデヒド、マンガン、モリブデン、有機体窒素、有機リン化合物、酸化水素、硫酸イオン、リン化合物、リン含有量、6価クロム)
エッフェル型風洞	吹き出し口形状(横300mm×縦400mm)	最小風速8m/sから最大風速20m/sまで可変

(出典 地域連携テクノセンター資料)

A-1-①-2
資料A-1-①-6

東京工業高等専門学校技術懇談会 会則

制 定 平成5年7月16日
一部改正 平成6年7月28日
一部改正 平成13年6月6日
一部改正 平成15年6月18日
一部改正 平成16年6月30日

(会の名称)

第1条 本会は、東京工業高等専門学校「技術懇談会」と称する。

(目的)

第2条 本会は、研究開発機能を有する東京工業高等専門学校（以下「東京高専」という。）と企業との技術交流、情報交換等の事業を実施し、もって地域の更なる発展と東京高専の一層の充実、振興を図ることを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するための次の事業を行う。

- 一 各種技術分野での情報交換及び新技術の紹介
- 二 東京高専の研究テーマに関する意見交換
- 三 共同研究に関する意見交換
- 四 技術援助及び技術相談に関する意見交換
- 五 先端技術シンポジウム、リフレッシュ教育セミナー等技術者教育の内容に関する意見交換
- 六 講演会の開催
- 七 企業等の見学会の実施
- 八 東京高専の事業への参加ならびに後援
- 九 本会の目的達成のための部会設置ならびに活動推進
- 十 その他、本会の目的達成に必要な事業

(事務局)

第4条 本会の事務局は、当分の間、東京都八王子市櫛田町1220-2「東京高専」内に置く。

(会員)

第5条 本会は、本会の目的に賛同する次のものをもって構成する。

- 一 民間企業
- 二 個人
- 三 東京高専

(入会)

第6条 民間企業又は個人が本会の会員になろうとするときは、別に定める入会申込書を会長に提出しなければならない。

(出典 技術懇談会資料)

資料A-1-①-6

(退会)

第7条 会員が本会を退会しようとするときは、別に定める退会届を会長に提出しなければならない。

- 2 会員が次の各号のいずれかに該当するときは、退会したものと見なす。
- 一 民間企業が解散し、又は破産したとき。
 - 二 個人会員が死亡し、又は失踪宣告を受けたとき。
 - 三 会費を納入せず、督促後なお会費を2年以上滞納したとき。

(役員)

第8条 本会に、次の役員を置く。

- 一 会長 1名
- 二 副会長 2名
- 三 理事 若干名（会長及び副会長を含む。）
- 四 監査 1名

(役員を選出)

第9条 役員を選出は、総会において会員の互選により定める。ただし、副会長、理事及び監査が任期半ばに欠員となったときは、会長が指名し、理事会の承認を得て決定する。

(役員の仕事)

第10条 会長は、会務を総理し、本会を代表する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、または会長が任期半ばに欠員となったときは、その職務を代行する。
- 3 理事は、事務局を組織し、本会運営に関する事項を処理する。
- 4 監査は、会計を監査する。

(役員の仕事)

第11条 役員の仕事は2年とする。ただし、再選することができる。

- 2 補欠によって就任した役員の仕事は、前任者の残任期間とする。

(顧問)

第12条 本会への指導と援助を受けるため、若干名の顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、理事会の議を経て、会長がこれを委嘱する。
- 3 顧問は、会長の諮問に応じると共に、会長の求めに応じて会議に出席して意見を述べることができる。

(会議)

第13条 本会の会議は、総会、理事会とする。

- 2 会議は、それぞれ構成員の半数以上が出席しなければ議事を開き、議決することができない。
- 3 議事は、すべて出席者の過半数で決する。

(総会)

第14条 本会の総会は、毎年1回会長が招集する。ただし、会長が認めたときは、臨時に総会を招集することができるものとする。

(出典 技術懇談会資料)

資料A-1-①-6

- 2 会長が指示した役員は、総会の議長となる。
- 3 総会は、この会則に定める事項のほか、次の事項を審議決定する。
 - 一 事業計画、報告に関すること
 - 二 その他重要事項に関すること

(理事会)

- 第15条 理事会は、会長、副会長及び理事をもって構成する。
- 2 理事会は、毎年2回以上会長が招集する。
 - 3 会長は、理事会の議長となる。
 - 4 会長が必要と認めるときは、理事会へ第1項の構成員以外の者の出席を求め、意見を聴取することができる。
 - 5 理事会は、この会則に定めるもののほか、次の事項を処理する。
 - 一 総会提出案の立案及び調整に関すること
 - 二 総会からの委任事項に関すること
 - 三 第3条に規定する事業の立案及び調整に関すること
 - 四 その他本会の運営に関すること

(経費)

- 第16条 本会の運営経費は、会費その他の収入をもって充てる。

(会費)

- 第17条 会費の額は、一年度当たり次のとおりとする。
- 一 民間企業会員 10,000円
 - 二 個人会員 5,000円

(会計年度)

- 第18条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年の3月31日に終わる。

(会則の改正)

- 第19条 この会則の改正は、総会の議決を得なければならない。

(委任規程)

- 第20条 この会則の施行に関し必要事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成5年7月16日から施行する。

附 則

この規程は、平成6年7月28日から施行する。

附 則

この規程は、平成13年6月6日から施行し、平成13年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成15年6月18日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年6月30日から施行する。

(出典 技術懇談会資料)

1/2 ページ

member

技術懇談会

INDEX ▲

- トップページ
- 専業内容
- 活動予定 (H18)
- 会員一覧
- お知らせ

● 会員一覧

平成18年度役員

会長 吉原 (株)ニレコ
副会長 大田 富士機 ・大栄エレクトロニクス(株)
三谷 知世 ・東京電導

理事 安藤 友成 ・コーキャン(株)
坂原 友成 ・(有)アイル
鈴木 智 ・(株)スリーポンド
藤岡 隆雄 ・日本分光(株)
藤岡 隆雄 ・東京電導
藤岡 隆雄 ・東京電導
藤岡 隆雄 ・東京電導
藤岡 隆雄 ・東京電導

監事 山田 繁義 ・市町村土木計画(有)

2/2 ページ

member

技術懇談会

INDEX ▲

専業内容

活動予定 (H18)

会員一覧

お知らせ

● 会員一覧

平成18年度役員

会長 吉原 (株)ニレコ
副会長 大田 富士機 ・大栄エレクトロニクス(株)
三谷 知世 ・東京電導

理事 安藤 友成 ・コーキャン(株)
坂原 友成 ・(有)アイル
鈴木 智 ・(株)スリーポンド
藤岡 隆雄 ・日本分光(株)
藤岡 隆雄 ・東京電導
藤岡 隆雄 ・東京電導
藤岡 隆雄 ・東京電導

監事 山田 繁義 ・市町村土木計画(有)

企業名

相田化学工業(株) (株) デイタク
(有) アイル テクノブレーンズ(株)
(株) アサヒ化学研究所 (株) テーシューケー
石井化学産業(株) 東京インキ(株)
(株) イシカワ 東京特殊印刷工業(株)
HKT(株) 日本表面化学(株)
(株) 大島伴本舗 日本分光(株)
(株) クレアテラ (株) ニレコ
(株) KDDI (株) 白底化学研究所
国産機械(株) フジタ製菓(株)
(株) コスモ計器 二葉電機(株)
(有) コンセルト ニューキャン(株)
(株) シーアイエス
市町村土木計画(有)
ジャスコエンジニアリング(株)
乾の目ミシン工業(株)
シャノンデザインエンジニアリング
(株) スリーポンド
大栄エレクトロニクス(株)
大信工業(株)
大丸化学産業(株)
(株) タチエス
豊坂電機(株)
TMCシステム(株)

http://xythos.tokyo-ct.ac.jp/dpt/tecco/kondankai/R-TC_member.htm

2007/03/27

2/2 ページ

member

技術懇談会

INDEX ▲

専業内容

活動予定 (H18)

会員一覧

お知らせ

● 会員一覧

平成18年度役員

会長 吉原 (株)ニレコ
副会長 大田 富士機 ・大栄エレクトロニクス(株)
三谷 知世 ・東京電導

理事 安藤 友成 ・コーキャン(株)
坂原 友成 ・(有)アイル
鈴木 智 ・(株)スリーポンド
藤岡 隆雄 ・日本分光(株)
藤岡 隆雄 ・東京電導
藤岡 隆雄 ・東京電導
藤岡 隆雄 ・東京電導

監事 山田 繁義 ・市町村土木計画(有)

企業名

相田化学工業(株) (株) デイタク
(有) アイル テクノブレーンズ(株)
(株) アサヒ化学研究所 (株) テーシューケー
石井化学産業(株) 東京インキ(株)
(株) イシカワ 東京特殊印刷工業(株)
HKT(株) 日本表面化学(株)
(株) 大島伴本舗 日本分光(株)
(株) クレアテラ (株) ニレコ
(株) KDDI (株) 白底化学研究所
国産機械(株) フジタ製菓(株)
(株) コスモ計器 二葉電機(株)
(有) コンセルト ニューキャン(株)
(株) シーアイエス
市町村土木計画(有)
ジャスコエンジニアリング(株)
乾の目ミシン工業(株)
シャノンデザインエンジニアリング
(株) スリーポンド
大栄エレクトロニクス(株)
大信工業(株)
大丸化学産業(株)
(株) タチエス
豊坂電機(株)
TMCシステム(株)

http://xythos.tokyo-ct.ac.jp/dpt/tecco/kondankai/R-TC_member.htm

2007/03/27

資料A-1-①-7

東京工業高等専門学校「技術懇談会」

平成19年度 役員(案)

会 長	大 田 吉 彦	(株)ニレコ 顧問
副会長	田 中 貴 資	壺坂電機(株) 取締役技術部長
	三 谷 知 世	東京高専 副校長
理事	安 藤 馨	ユーキャン(株) 代表取締役社長
	齋 藤 昭 弘	(有)コンサルト 代表取締役
	篠 崎 美 雄	日本分光(株) 総務部長
	鈴 木 富士雄	大英エレクトロニクス(株) 代表取締役社長
	西 野 義 一	(株)山武 アトハンスオートメーションカンパニー 係長
	細 木 智	(株)スリーボンド 研究所 研究部長代理
	正 木 進	(株)ティーディーワイ 執行役員
	山 口 俊 明	蛇の目マシン工業(株) 副本部長
	黒 崎 茂	東京高専 専攻科長
	松 井 義 弘	東京高専 電気工学科 教授
	小 嶋 徹 也	東京高専 情報工学科 准教授
	佐々木 桂 一	東京高専 産学連携コーディネーター
監査	山 田 親 義	市町村土木計画(有)情報開発部 研究員

(出典 技術懇談会資料)

資料A-1-①-8

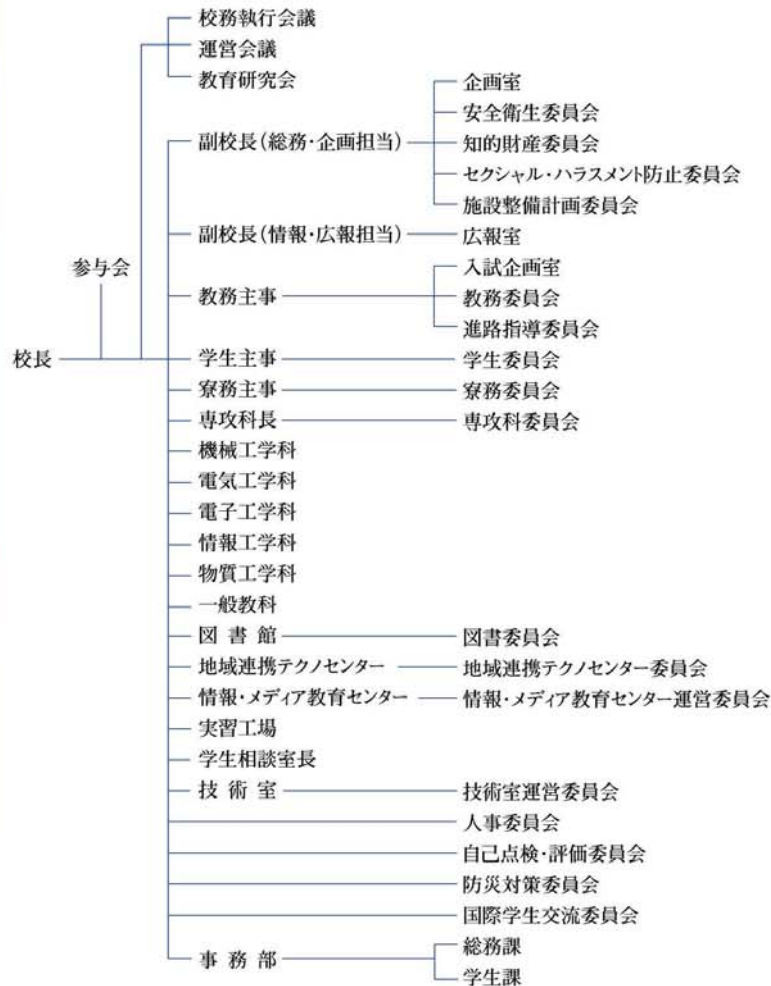
東京工業高等専門学校「技術懇談会」

平成18年度 事業実施報告 (案)

1. 平成18年度総会及び第1回懇談会 平成18年6月29日(木)
 - (1) 総会
 - (2) 特別企画
「セラミック焼結体の機能発現と原料粒子の効果」講師：東京高専校長 水谷惟恭先生
懇親会
2. 企業見学会 平成18年11月7日(火)
 - (独)物質・材料研究機構(茨城県つくば市)
3. 東京工業高等専門学校専攻科特別研究最終発表会 平成19年2月3日(土)
 - (1)発表会(八王子学園都市センター)
 - (2)優秀者表彰式及び懇親会(京王プラザホテル八王子)
4. 平成18年度異業種交流会及び研究資源の紹介 平成19年3月8日(木)
 - (1)異業種交流会(発表20分 質疑応答10分)
講師・①株式会社イシカワ
EMC研究所長 足立正治氏
②株式会社ティーディーワイ
機器事業部長 川崎拓也氏
 - (2)研究資源紹介
地域連携テクノセンター機器室
(①光造形機 ②表目粗さSEM ③X線回折装置)
 - (3)懇親会
5. セミナー 平成19年3月23日(金)
 - 『表面、表目粗さの評価』講師：機械工学科 福田勝己教授 堤博貴助手(現助教)
6. 東京高専主催事業等への参加
 - (1)第1回イブニングセミナー 平成18年11月4日(金)
「パップアレイヤを利用したエポキシ樹脂積層膜」講師：東京高専校長 水谷惟恭先生
 - (2)ナノマテリアルセミナー 平成18年12月20日(水)
「ラマン分光最前線」講師：日本分光株式会社 天野守氏
「X線回折最前線」講師：ブルッカーエイエックス株式会社 岩瀬正晴氏
「東京高専の資源有効活用法」講師：株式会社スリーボンド 後藤隆生氏
 - (3)第2回イブニングセミナー 平成19年3月19日(月)
 - (4)東京工業大学大学院教員による出前授業(全14回)平成19年4月～7月
7. その他
 - 理事会の開催 8回
第1回H18.4.11(火)、第2回H18.6.13(火)、第3回H18.8.8(火)、第4回H18.10.10(火)、
第5回H18.12.12(火)、第6回H19.2.13(火)、第7回H19.4.10(火)、第8回H19.6.12(火)

(出典 技術懇談会資料)

— 組織機構図 —



■ 役職者

職名	氏名	職名	氏名
校長	水谷 惟 恭	寮務主事	河村 豊
副校長(総務・企画担当)	三谷 知 世	専攻科長	黒崎 茂
副校長(情報・広報担当)	津田 潔	事務部長	芳竹 道夫
教務主事	小坂 敏 文	総務課長	星 操
学生主事	青木 宏 之	学生課長	金澤 幸博

拒した直接経費の額に不相当が生じたときは、不用となった額の範囲内でその全部又は一部を共同研究実施者に返還することができる。

第8条 研究担当者は、当該共同研究が完了したときは、共同研究完了報告書（別紙第6号様式）により校長に提出しなければならない。

2 校長は、前項の報告を受けたときは、契約担当役及び共同研究実施者に共同研究完了通知書（別紙第7号様式）により通知するものとする。

第9条 校長は、共同研究による研究成果の公表時期及び方法について、共同研究実施者と協議して定めるものとする。

第10条 共同研究の受け入れその前後経理事務は庶務課が、会計に関する事務は会計課が処理するものとする。

第11条 この規則に定めるもののほか、共同研究の取扱いに関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則
この規則は、平成5年12月27日から施行する。
附 則
この規則は、平成10年3月12日から施行する。
附 則
この規則は、平成13年1月25日から施行し、平成13年1月6日から適用する。
附 則
この規則は、平成13年4月1日から施行する。
附 則
この規則は、平成14年3月7日から施行する。
附 則
この規則は、平成18年4月1日から施行する。

東京工業高等専門学校共同研究取扱規則（平成5年12月27日施行）の全部を改正する。

制 定 平成5年12月27日
最終改正 平成18年3月2日

（總則）

第1条 東京工業高等専門学校（以下「本校」という。）における独立行政法人国立高等専門学校機構（以下「機構」という。）以外の者（以下「共同研究実施者」という。）との共同研究の取扱いについては、独立行政法人国立高等専門学校機構共同研究実施規則（平成16年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第46号）に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

第2条 共同研究を希望する共同研究実施者は、あらかじめ共同研究を行う本校の職員（以下「研究担当者」という。）と協議のうえ作成した共同研究申込書（別紙第1号様式）を校長に提出するものとする。

2 研究担当者は、共同研究実施者が共同研究申請書を提出する際に共同研究計画書（別紙第2号様式）を校長へ提出するものとする。

（受け入れの決定）

第3条 校長は、共同研究実施者から共同研究申込書を受領したときは、当該共同研究の受け入れその他の共同研究の実施に必要な事項について審査するために、本校の役員執行会議の議を経て、受け入れを決定するものとする。

2 校長は、第1項の申請の結果に基づいて受け入れを決定したときは、共同研究導入決定通知書（別紙第3号様式、別紙第3号の2様式及び別紙第3号の3様式）により共同研究実施者及び契約担当役並びに研究代表者に通知するものとする。

第4条 契約担当役は、前条第2項の通知に基づき共同研究実施者と共同研究の契約を締結し、研究担当者にその旨を通知するものとする。

（研究経費の納入）

第5条 契約を締結した共同研究実施者は、共同研究遂行のために必要な謝金、旅費、備品費、消耗品費及び光熱費等の直接的な経費並びに共同研究実施者が本校に研究員を派遣する場合の研究料を、出納命令状の発行する請求書により納入しなければならない。

（研究経費）

第6条 共同研究遂行上、研究費により取得した設備等は、本校の所有に属するものとする。

2 本校で行う共同研究の遂行上必要な場合には、共同研究実施者から、共同研究に要する経費のほか、その所有に係る設備を受け入れることができる。

3 前項の設備の受け入れに当たって必要となる購入、搬出のための経費は、共同研究実施者が負担する。

（共同研究の中止又は期間の延長）

第7条 研究担当者は、天災その他やむを得ない事由により共同研究を中止し、又は期間を延長する必要があるときは、共同研究の中止・延長届（別紙第4号様式）により校長に届けなければならない。

2 校長は、前項の届を受けた場合において、やむを得ないと認めるときは、共同研究実施者と協議の上これを中止し、又は研究期間を延長することができる。

3 校長は、前項により共同研究を中止し、又は研究期間を延長したときは、共同研究の中止・延長決定通知書（別紙第5号様式）により契約担当役に通知するものとする。

4 第2項の規定により、共同研究を中止した場合において第5条の規定により共同研究実施者が負

(出典 東京工業高等専門学校規則集)

資料A-1-①-11

平成 19 年 3 月 5 日

東京工業高等専門学校
技術懇談会会員各位

技術懇談会事務局

セミナー開催のご案内

平素は技術懇談会活動にご協力頂き誠にありがとうございます。
さて、この度下記のとおり表面粗さに関するセミナーを開催することになりました。基礎から分かりやすく解説します。ご興味のある方々はぜひご参加ください。ご参加の場合、別紙に必要事項をご記入の上、3月16日(金)までにメールあるいはFAXでお申込ください。

記

日時：平成 19 年 3 月 23 日(金) 13時から

場所：東京高専専攻科棟 4 階 共通ゼミ室

講師：機械工学科 福田勝己教授

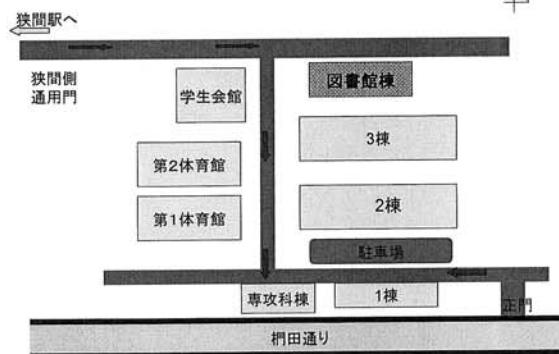
機械工学科 堤博貴助手

テーマおよび内容：『表面、表面粗さの評価』

表面、表面粗さの講義 2～3 時間

表面粗さ実習 1～2 時間

東京高専専攻科棟までの順路



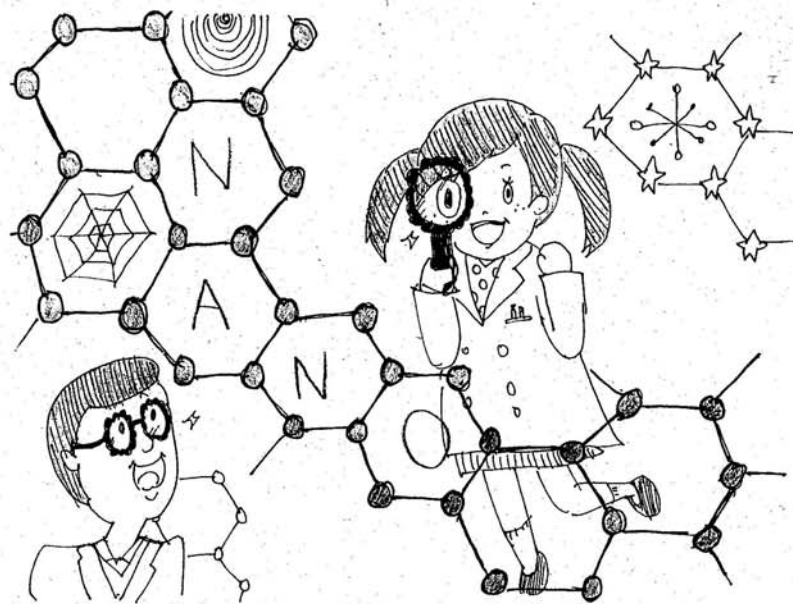
(出典 技術懇談会資料)

資料A-1-①-12

平成 18 年度特別教育研究経費
(研究の推進に関する経費)

ナノマテリアルの早期工学教育手法
の構築に関する研究

成 果 報 告 書



東京工業高等専門学校ナノマテリアル研究チーム

平成 19 年 3 月 31 日

(出典 総務課保管資料)

- 3) CD
ヘッドフォンの貸出を行います。
- 4) CD-ROM
キーボード及びマウスの貸出を行います。

④新 聞

当日分及び過去1週間分の新聞をプラウジングコーナーに設置しています。縮刷版については、書庫部分に配架しています。



マルチメディアコーナー/V.O.Dシステム、ビデオ、CD等を利用できます。



2階 読書室

4 資料の探し方 (図書)

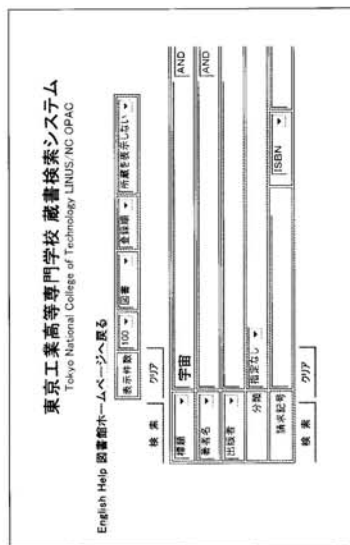
読みたい図書、借りたい図書を探す場合には、次の方法があります。

①直接、書架で探します。

図書は、その内容や主題によって請求記号（分類番号、著者記号）順に配架してあります。「書架配置案内」掲示板で確認してください。

②「蔵書検索システム」を利用して探します。

必要な検索文字を入力し、必要な図書を探します。



例 タイトルを「宇宙」と入力して検索した場合
次のページに示すように、関連した図書の一覧が表示されます。

5 サービス

5 サービス

図書館では資料をより有効に活用していただくために、次のようなサービスを行っています。

①レファレンスサービス

図書館及び図書館資料について、利用者の皆さんからの様々な質問や相談を受け、調査の手伝いをします。

- 1) 図書館の利用方法
- 2) 資料の検索の仕方
- 3) 図書館の希望
- 4) 必要とする資料の希望
- 5) その他

②館内文献複写

図書館では、著作権法で認められた範囲内で図書館資料の複写をすることができます。複写料金は1枚につき10円です。

③館外文献複写の依頼及び図書への借受

本校で所蔵していない資料で、他の国立大学・高専で所蔵している資料について、調査研究のためにその一部分を複写する場合に限って申し込むことができます。図書館ホームページの「文献複写依頼」(学内専用)から申し込んでください。学生及び一般利用者の方で、私費で依頼する場合は、私費依頼申込みを利用してください。
☆図書館ホームページから外部へのリンクが可能です。

③ American Physical Society

On February 21, 2004 access to the Submissions Server, the Author Status Inquiry System, and the Referee unavailable from 1 PM to 4 PM EST due to maintenance. We apologize for any inconvenience this might cause.

④ American Chemical Society

(出典 図書館パンフレット)

観点A-1-②： 研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

(観点に係る状況)

目的(1)の地域連携による研究貢献に関しては、資料A-1-②-1に示すような成果が上がっている。例えば、八王子産学公連携機構における研究発表会では、本校から22件の成果発表(共同研究等の一環で行われる卒業研究や専攻科特別研究の成果発表)があり、うち4件が優秀賞を受賞している。これらは、質の高い共同研究の実績によるところと考えられる。

また、目的(2)の共同研究に関する成果としては、資料A-1-②-3および現地閲覧資料に示すように、数多くの共同研究の事例があり、また研究支援のための寄附金や科学研究費補助金も獲得している。このような実績から、共同研究に関する活動の成果があがっていると言える。

目的(3)(4)の教育研究などに関する成果もあがっている。資料A-1-②-4に示すように、その成果は良好である。また、教育研究に関する成果としては、資料A-1-②-4のとおり、平成18年度実績で論文91件、口頭発表159件、その他31件の公表実績となっており、きわめて良好である。また、過去3年間で6件の特許出願もある(現地閲覧資料110)。

研究が活発に行われていることは、「着任後の学位取得実績一覧」(現地閲覧資料を参照)によっても確認できる。

(分析結果とその根拠理由)

地域連携テクノセンター・技術懇談会などにより、多くの地域連携に係る研究成果・実績があがられている。共同研究に関しても多くの成果があがっている。教育研究に関する成果としては、研究のための外部資金受入があり、多数の論文が発表されている。また、一部、特許等の成果にも結びついている。更に、研究が活発に行われていることが多数の学位保持者を擁していることにつながっている。

以上により、研究の目的に沿った活動の成果が上げられている。

平成18年度地域連携

1. 八王子市学園都市大学

八王子市学園都市大学いちょう館(八王子市を中心に実施している市民大学)に講座を提供している。

学科	担当教	講座名	実施時期	備考
M	木村剛	八王子市風のための創造世代から のユニバーサルデザイン	後編(全6回)	

2. 八王子市子ども体験塾

八王子市に協力して体験型の公開講座を実施

字種	担当者	講座名	実施時期	備考
M	黒崎	メカトロニクス体験	8月(2回実施)	
D	小池	電子工学科体験教室	8月(9回実施)	
J	小嶋	番号の仕組みを知ろう	7月	
J	松林	風に向かって進むウィンドカーを作ろう	7月	
J	菅野	ハードとソフトの基本を理解しよう	7月(2回実施)	
C	阿久沢	空気の薬液を作ろう	8月	
C	石井	ときめき化学実験	7月(2回実施)	
G	竹田	英文多量の楽しみ	7月(2回実施)	

3. たまごサイエンス

多摩市公民館の小学生むけ理科教室に協力

日付	企画名称	企画内容	備考
11月11日	科学少年	傘と日用品でラジオを作成	
11月18日	七宝楼	七宝楼製作	
1月20日	ウィンドカー	風に向かって進むおもちゃの工作	
1月27日	電線探検	電線探検とラジオで電線を探検	
3月17日	電子ルーレット	電子ルーレット作成	
3月24日	新エネルギー	太陽電池または燃料電池	

4. 八王子産学公連携機構研究発表会

八王子産学公連携機構(八王子市内21大学と市などがメンバー)の産学連携懇話会(学生研究発表会)に参加

日付	発表者数	優秀賞	備考
11月11日	22件(125件中)	4件(17件中)	

平成18年度地域連携

5. サイエンススクエア

国立科学博物館で開催されるサイエンススクエアで企画を担当

日付	企画名称	企画内容	備考
8月22日	日用品でラジオを作ろう(科学少年)	傘と日用品でラジオを作成	
8月23日	風に向かって進むウィンドカーを作ろう	風に向かって進むおもちゃの工作	
8月24日	伝統工芸「七宝楼」に挑戦しよう!	七宝楼製作	
8月25日~27日	おもしろ化学展-色-	「色」の変化する化学実験	

6. 近畿小中学校への出前講座

近畿小中学校から要請を受けて、理科教室、ロボット操作実験など実施
平成18年度は0回実施

資料A-1-②-3

平成18年度 科学研究費補助金採択状況

区分	課題名	代表者名	採択件数(件)		採択金額(18年度分) (円)		募集機関
			新規	継続	新規	継続	
基盤研究(C)	試作ピエゾセンサーによる機器安全保持のためのひずみモニタリング方法	黒崎茂	1		2,400,000		日本学術振興会
基盤研究(C)	新規カーボン多孔質材料の創製とキャラクタリゼーション	阿久沢昇	1		1,200,000		日本学術振興会
基盤研究(C)	工業高専および企業における人材育成と技術者倫理教育の現状と課題	川北晃司	1		2,200,000		日本学術振興会
萌芽研究	廃棄物を出さない魚と野菜の循環生産システム(アクアポニックス)による環境教育研究	松林勝志	1		1,100,000		日本学術振興会
若手研究(B)	理工系学生のためのオブジェクト指向による論理的明快文書作成教育の支援システム構築	松本章代	1		300,000		日本学術振興会
若手研究(B)	生物適合モデルに基づく土壌環境中の重金属の植物に対する有害性予測	庄司良	1		2,300,000		日本学術振興会
基盤研究(C)	高度英語リーディング教材指導システムとコースウェアの開発	相澤俊行		1		1,400,000	日本学術振興会
基盤研究(B)	第二次大戦期日本における戦時科学動員に関わる実証的研究	河村豊		1		600,000	日本学術振興会
若手研究(B)	行書体毛筆文字列の自動生成に基づく書き続け字宛名の高精度認識に関する研究	鈴木雅人		1		500,000	日本学術振興会
特定領域研究	手作り酸素センサによる探求型理科教育の教材開発	高橋三男		1		4,000,000	文部科学省
萌芽研究	超臨界状態を利用した新規酵素含有リボソームの開発とセンサへの応用	町田茂		1		1,100,000	日本学術振興会
奨励研究	理論と実践をともに重視したOS・ネットワーク技術教育環境の構築	村田賢俊	1		400,000		日本学術振興会
奨励研究	土壌汚染物質の種子発芽への影響およびストレスタンパク質の検出	飯田裕	1		750,000		日本学術振興会
奨励研究	オオミジンコの培養条件による影響及び教材への応用について	長井佳尚	1		390,000		日本学術振興会
合計(総括表)			9	5	11,040,000	7,600,000	

(出典 総務課資料)

資料A-1-②-3

平成18年度 外部資金受入状況

外部資金名称	受入金額 (円)
受託研究	4,500,000
共同研究	7,470,000
受託試験	160,050
奨学寄附金	18,276,973
科学研究費補助金	18,640,000
合計	49,047,023

平成17年度 外部資金受入状況

外部資金名称	受入金額 (円)
受託研究	2,000,000
共同研究	5,025,000
受託試験	297,200
奨学寄附金	11,428,735
科学研究費補助金	13,600,000
合計	32,350,935

(出典 総務課資料)

48 東京工業高等専門学校研究報告書 (第 38(1)号)

【図解入門 よくわかる電磁気学の基本と仕組み】(秀和システム,2006.3)……………瀬 秀樹
 【高専の応用物理第2巻】(東北出版,2006.12)……………編者:小暮 隆夫・瀬 秀樹・中岡 敏彦・瀬 秀樹・宮本 大野,竹内 秀樹
 【図解入門 よくわかる物理化学の基本と仕組み】(秀和システム,2006.12)……………瀬 秀樹
 【図解入門 よくわかる光学とレーザーの基本と仕組み】(秀和システム,2006.10)……………瀬 秀樹
 【Theory of Copper Oxide Superconductors】(Springer,2005.5)……………H. Kamimura, H. Ushio, S. Matsuno and T. Hamada
 【実験で分かる エネルギーと環境】(秀和システム,2005.5)……………瀬 秀樹, 大野秀樹
 【スタートの空想のいっつかの証跡および数学・工学上の意義について】……………佐藤義隆
 (論文学専教育28号, pp. 257-262, 2005 共著)

The Uniqueness and the Existence of the Generalized Moore-Penrose Inverse……………佐藤義隆
 (Bull.Polytechnic University No.34-A, 2005, pp. 167-180)

チェバの定理の3次元ユークリッド空間への拡張について……………佐藤義隆
 (日本数学会教育会誌・大学部会論文誌第12号, 2006, pp.87-92 共著)

A Note on Relative Generalized Inverse (Bull.Polytechnic University No. 35-A, 2005, pp.169-174)……………佐藤義隆
 【種別統計】(大日本図書,2006 共著)……………佐藤義隆
 【応用数学】(大日本図書,2006 共著)……………佐藤義隆
 【応用数学問題集】(大日本図書,2006 共著)……………佐藤義隆
 On the Density Function of an Invariant Measure under One-Dimensional Bernoulli Transformations……………Yuko Ichikawa
 (Tokyo Journal of Mathematics) vol. 28, No.1, 2006, pp. 155-171)

On the Convergence rate of 2-dimensional low discrepancy sequences……………吉川裕子, 森真
 (数理解析研究所講義1463後半数値解析における問題集, 第 2006.L, pp.63-78)

現代数学の探求における "parametrized graphics" の効果的導入……………清藤 晃
 (「高等教育」第29巻, 2006.3, pp. 79-84)

機械工学科
 ウィブル分布による風況および発電量予測に関する一考察……………青藤純夫, 佐藤健一, 関塚 智
 (「日本機械学会論文集」(B編) 71巻107号, 2007, pp. 1847-1853)

Mine Remote Sensing Technology Using a Working Robot……………下井信浩
 (J. Journal of Robotics and Mechatronics, Motion Control and Applications in Robot Technology [RT])
 Vol.17, No.1, 2005.1, pp. 101-106)

ファインセラミックスの生体加工……………下井信浩
 (「日本材料学会論文集」メカトニクス) Vol.49, No.193, 2005.12, pp.45-54)

Detection of Crack Initiation by Observations of Free Surface Condition……………下井信浩
 (J. Journal of ASTM International) Vol.3 No.6, 2006.2)

……………Katsuki Ichikawa, Saichiro Yoshida, Kenji Gomi, Kiyoaki Tanisuchi, Kazumi Fukuda, and Hideyuki Ishii
 理論に対する応用技術 (機械の研究) vol. 58-1, 2006, p. 132-142)……………木村 博
 電気工学科
 V-I Characteristics of Short Gap Arc in Air at C, Ag, Cu, Pt, and W Electrodes……………山内隆生, 張心亮, 大澤義隆
 —Measurement and Formulation for Practical Use—
 (IEICE Transactions on Electronics, Special Section on Recent Development of Electro-Mechanical
 Devices-Selected Papers from International Session on Electro-Mechanical Devices2004 (ISEMD2004,
 Vol. E88-C, No. 8, August, 2005, pp. 1603-1616))……………Keiichi SUHARA
 制御部における非線形最適化制御モジュールの開発……………土井 淳, 竹内隆裕子
 (「電気学会論文誌D」125巻11号, 2005.11, pp. 1066-1077)

……………伊藤 彰, 佐藤義隆
 信号処理のための数字の一手法—電算機制御の基礎的考察を以て—
 (「日本数学会教育会誌・大学部会論文集」Vol. 12, No.1, August2005, pp. 33-36)

10BASE-T & 100BASE-TX 機器の評価……………山内隆生, 張心亮, 大澤義隆
 (「東京工業高等専門学校研究報告書」第37(2)号, 2006.1, pp.57-60)

47 東京工業高等専門学校研究報告書 第 38(1)号, 2006

平成17年度全教員教育研究業績
 1. 研究論文・著作物 (著書・翻訳書など)
 一般教員 (人・社系・英語系)
 環境リスク管理論とその価値観——社団・学術機関を展望して——……………山北見司
 (東京工業高等専門学校研究報告書) 第37(1)号, 2006, pp. 21-30)

高専における東洋的国際探検家の探み——2004年度 3 年次普通理法授業報告——……………山北見司, 津田謙
 (東京工業高等専門学校研究報告書) 第37(2)号, 2006, pp. 29-41)

戦争初期における文部省の戦時科学政策——有本次郎日記をめぐって——……………松戸美智子, 山北見司, 津田謙
 (「年ジブト」No.34, 2005.5, pp.121-132)

Laying the Foundation for Wartime Research: A Comparative Overview of Science Mobilization
 in National Socialist Germany, Japan, and the Soviet Union. (Oeiris, 2005, pp. 79-106)
 ……………Walter E. Grunden, Yuusaku Kawamura, Eduard Kochimsky, Helmut Maier, and Masakatsu Yamazaki

戦時中の日本における科学者動員……………津村 豊
 (広島大学科学雑誌「戦争と科学の諸問題」丸巻, 2006.2, pp.127-131)

第二次大戦前後期における米国の中小企業政策——中小戦時工場公社の承継資産処分政策——……………津村 豊
 (「西洋史学」72号, 2006.3, pp.1-21)

第11巻 日本経済の現状と課題 第3部 産業構造の変化……………佐野 敬一
 (「川柳」No.10, 2006.3, pp.1-21)

A Controlled Translation Activity in English Class—Caption Writing According to the Length of Time—
 (東京工業高等専門学校研究報告書) 第37(2)号, 2006.1, pp.19-28)
 ……………佐野 敬一
 「理工系学生のための英語読解300」(鳥山太一編 東洋堂出版, 2006.3分冊執筆)……………村井三千男
 Difficult areas that Japanese learners of English have in shadowing……………村井三千男
 (Proceedings of the 7th IFLA Commemorative Conference of the English Phonetic Society of Japan.)
 2005.11, pp.04-113)

日本人英語のインテリジェンティに關する試み—短期大学生の場合—……………堀 智子
 (田中英、神崎高明編「英語法研究の新展開」英学社, 2005.10, pp. 218-224)

高専1年生を対象とした英文基礎習熟の授業……………堀 智子
 (Teaching Extensive Reading to the First Year Students at College of Technology)
 (平成17年度日本工教育協会第53回年次大会講演論文集) 2005.8, pp. 296-297)

英文多読を取り入れた1年生英文読解授業の業績報告……………竹田雅美, 堀 智子
 (東京工業高等専門学校研究報告書) 第37(2)号, 2006.1)

……………竹田雅美, 堀 智子
 リーディング処理の自動化技術としてのシャドレーディングの実践とその効果—手帳調査
 (中部地区英語教育学会「紀要」35号, 2006.2, pp. 271-278)

臨床英語教育入門(学際編)——問題の所在あるいは本質論および目的論を中心に——……………相澤俊行
 (東京工業高等専門学校報告書) 第37(1)号, 2005.6, pp. 13-20)

臨床英語教育入門(学際編2)—英語読解論: 分肢型のデザイナー/トレーナーへ——……………相澤俊行
 (東京工業高等専門学校報告書) 第37(2)号, 2006.1, pp. 43-48)

……………相澤俊行
 「新編万葉集」注釈稿 (上巻 秋部 六八〜六九)……………相澤俊行
 (東京工業高等専門学校研究報告書) 第37(2)号, 2006.1, pp.1-10)

……………津田 謙, 半澤幹一
 「新編万葉集」注釈稿 (上巻 秋部 七〇〜七二)……………津田 謙, 半澤幹一, 津田 謙
 (「共立女子大学学芸部紀要」第52巻, 2006.1, pp.1-23)

……………津田 謙
 一般教員 (数系系・物理系)
 多くの穴を持つ環状上の半線形積層円筒の解の存在と非存在……………相田 俊
 (東京工業高等専門学校研究報告書) 第37(2)号, 2006.1, pp.67-70)

(出典 東京工業高等専門学校研究報告書)

50 東京工業高等専門学校研究報告書 (巻 38(1)号)

held in Genova, vol. 3 September, 2005, pp. 249-252)T. Ohtsuka, A. Kondo
 Improvement of the fingerprint core detection using extended relation graph
 (Proceedings of IEEE-EURASIP International Workshop on Nonlinear Signal and Image Processing 2005,
 held in Sapporo, May, 2005, pp. 227-231)T. Ohtsuka, A. Kondo
 [実験で学ぶ楽しい電子工学] (後編システム, 2005)清藤樹雄, 大塚友彦, 本吉浩
 情報工学科

ダブルトーク問題を考慮したVoherra 通信フィルタで用いるエコーキャンセルアルゴリズム
 (電気学会論文誌C (電子・情報・システム部誌), vol. 125-C no. 7, pp. 1084-1092, July 2005.)
竹市憲一郎, 石川利博, 三村昌哉, 吉本定伸

内部サイバーテロまたは致命的ハブからシステムを保全するクリティカルリアルタイムシステム
 (東京工業高等専門学校研究報告書) 37(1)号, 2005.9, pp. 41-48)青野正宏, 小嶋徹也
 独立成分分析を用いた航空機騒音分離アルゴリズムとその数値的応用に関する考察
 (東京工業高等専門学校研究報告書) 37(2)号, 2006.1, pp. 71-78)小嶋徹也, 青野正宏

マルチメディア配信の改訂防止方式
 (東京工業高等専門学校研究報告書) 37(2)号, 2006.1, pp. 87-92)青野正宏, 上野健太, 小嶋徹也

組み込み型 CPU 向け共有メモリアクセス方式の提案
 (東京工業高等専門学校研究報告書) 37(2)号, 2006.1, pp. 79-85)横山孝徳, 鈴木 孝, 市村 洋

Reduction of Micro-Pressure Wave by Active Control of Propagating Compression Wave in High Speed Train Tunnel
 (J of Low Frequency Noise, Vibration and Active Control, Vol. 23, Num. 4, 2005, pp. 259-270)
Katsushi Matsubayashi, Toshifumi Kosaka, Toshiya Kitamura,
 Shioji Yamada Alan Vardy Jiri Brown

物質工学科

Seasonal and Bleaching-Induced Changes in Coral Reef Metabolism and CO₂ Flux
 (Global Biogeochem. Cyc., 19, GBR015, 1-11, 2005.)H. Kayanne, H. Hata, S. Kudo, H. Yamano, A. Watanabe,
 Y. Ikeda, K. Nozaki, K. Kato, A. Negishi, and H. Saito,

沼津養育・東京高専物質工学科合同夏期セミナーの成果と問題点
 (沼津17年度夏期教育講演論文集) 2005, pp. 297-300)
外林美孝, 三本龍夫, 加藤美知代, 中川 修, 野久沢, 藤村知之, 庄司 良, 須月明彦, 竹口昂之

Hydrogen-sorption capacity and transport properties of potassium-graphite intercalation compounds
 (JANUSO, 2006, No. 222, 2006.3, pp. 107-110)N. Akuzawa, T. Namoshita, K. Tsuchiya and R. Matsumoto
 [無機ナノシートの科学と応用]
 (黒田一幸, 佐々木義昭 著, シュエムン社編, 2005.4, pp. 28-38 (分冊執筆)阿久出昇

GCM を用いた蒸気凝縮膜厚の特性評価
 (Material Technology, Vol. 23, No. 6, 2005, pp.389-393)北折典之, 関戸広太, 田沼大輔, 高橋三男, 中村修彦

次亜塩素酸の ESR スペクトル強度と殺菌力
 (Electrochemistry, Vol. 73, No. 11, 2005, pp.962-964)北折典之

GCM 法によるアルミニウム薄膜の析出性の調査
 (Material Technology, Vol. 24, No. 2, 2006, pp. 84-88)北折典之, 関戸広太, 田沼大輔, 高橋三男, 中村修彦

New CO tolerant electro-catalysts exceeding Pt-Ru for the anode of fuel cells
 (Chem. Commun., 1212-1214 (2005))Hiroski Yano, Chisato Ono, Hidenobu Shiroishi and Tatsuhiko Okada,
 Potential-Dependence of Water Molecule in the Presence of Polycrystalline Platinum by
 Surface-Enhanced Infrared Absorption Spectroscopy. (J. Electroanal. Chem., 581 (2005) pp. 132-138)

Surface-Enhanced Infrared Absorption SpectroscopyHidenobu Shiroishi, Yusuke Ayano, Keiji Kunimatsu and Tatsuhiko Okada,
 Effect of Cobalt bis (benzothiolates) on Electrochemical Oxygen Reduction in Methanol - Acid Solution
 (Electrochim. Acta, 51 (2006) pp. 1225-1234)
Hidenobu Shiroishi, Yusuke Ayano, Jirí Rais, Keiji Kunimatsu, and Tatsuhiko Okada

49 平成17年度全国教員教育研究集録

Growth, Optical and Structural Characterization of Layered GaS Films Prepared by Reactive RF Sputtering Method
 (Japanese Journal of Applied Physics) Vol.44, No.7A, p. 4780, 2005)Masanori Ohyama and Hiroshi Ito

電子工学科

SI を用いて試作した温度センサーの熱伝導による影響 (東京高専研究報告書) 第37(1)号, 2005.9)梅原正光

Surface Texturing of Silicon by Hydrogen Radicals
 (Proceedings of the 31st IEEE Photovoltaic Specialists Conference, 2005, pp.1261-1264)
 H. Nagayoshi, K. Kono, S. Nishimura, K. Terashima

New Material System for Ultrahigh efficiency solar cells
 (Proceedings of the 31st IEEE Photovoltaic Specialists Conference, 2005, pp.725-727)
S. Nishimura, H. Nagayoshi, K. Terashima

Partial Shading Effect Emulation Using Multi-Scale Module Simulator Units
 (Proceedings of the 31st IEEE Photovoltaic Specialists Conference, 2005, pp.1710-1713)
 H. Nagayoshi, M. Atsuh

Surface texture on Si by hydrogen radicals
 (Jpn. J. Appl. Phys., 44 (2005) pp. 7839-7842)H. Nagayoshi, S. Nishimura, K. Terashima, K. Kono

Optical Properties of CaF₂Crystal Doped with Eu as Solar Cell Window
 (Proceedings of the 20th European Photovoltaic Solar Energy Conference and Exhibition, 2005, pp. 380-383)
 K. Terashima, S. Nishimura, H. Nagayoshi

Surface Texturing by Hydrogen Radicals
 (Proceedings of the 20th European Photovoltaic Solar Energy Conference and Exhibition, 2005, pp.1317-1320)
H. Nagayoshi, K. Kono, S. Nishimura, K. Terashima

New Material System for Ultra High Efficiency Solar Cells
 (Proceedings of the 20th European Photovoltaic Solar Energy Conference and Exhibition, 2005, pp.442-445)
 S. Nishimura, K. Terashima, H. Nagayoshi

Effect of Source Temperature Distribution on TEG System Output
 (Proceedings of 3rd Conference of European Conference on Thermoelectrics, 2005, pp.76-79)
H. Nagayoshi, T. Kajikawa

Silicon Surface Texturization Mechanism by Hydrogen Radicals Using Tungsten Hot Filament
 (Mater. Res. Soc. Symp. Proc. 891, Pt. A, 2006, pp. 21)H. Nagayoshi, S. Nishimura, and K. Terashima

Hydrogen Radical Etching Effect on Carbon Nanotube Growth
 (Mater. Res. Soc. Symp. Proc. 890, Pt. A, 2006, pp. 12)H. Nagayoshi, H. Sato, S. Nishimura and K. Terashima

texturing Mechanism Using Hydrogen Radicals Generated by Tungsten Hot Filament
 (Technical digest of the 15th International Photovoltaic Science and Engineering Conference, 2005,
 pp.295-296)H. Nagayoshi, K. Kono, S. Nishimura, K. Terashima

New Material System for Ultra High Efficiency Solar Cells
 (Technical digest of the 15th International Photovoltaic Science and Engineering Conference, 2005,
 pp. 371-372)S. Nishimura, K. Terashima and H. Nagayoshi

Eu Doped CaF₂Crystal for Photovoltaic Application
 (Technical digest of the 15th International Photovoltaic Science and Engineering Conference, 2005,
 pp. 484-485)K. Terashima, S. Nishimura, and H. Nagayoshi

A New Core and Delta Detection for Fingerprints using the Extended Relation Graph
 (IEICE Transactions on Fundamentals of Electronics, Communications and Computer Sciences,
 vol. E88-A, no. 10, October, 2005, pp. 2587-2592)T. Ohtsuka, A. Kondo

A New Detection Approach for the Fingerprint Core Location using Extended Relation Graph
 (IEICE Transactions on Information and Systems, vol. E88-D, no. 10, October, 2005, pp. 2308-2312)
T. Ohtsuka, T. Takahashi

A New Approach to Detect Core and Delta of the Fingerprint using Extended Relational Graph
 (Proceedings of IEEE International Conference on Image Processing 2005,

一般教科 (数学系・物理系)

円周角の球への拡張に関する不等式 (日本数学会大会, 2005.8)佐藤 誠
 チェルノブイリ原子力発電所事故の経緯について (第14回数論科学講演会, 2005.8)佐藤 誠
 三角形におけるエルミットの不等式とその四面体への拡張について (第12回数論科学講演会, 2005.8)佐藤 誠
 On the convergence rates of 2-dimensional low discrepancy sequences.
 (理数教育研究における「Parameterized graphics」の応用)市川 裕子, 森 真
 結晶成長速度の測定における「Parameterized graphics」の応用清藤 晃
 Diamond grown onto substrate treated by carbon on beam
 (Diamond2005, Toulouse, France, 2005)S. Ito, T. Matsumoto, K. Sato, H. Ohno and K. Hirakuri
 有限密度におけるクワークのスピンの離散化とカイラル対称性の破れ
 (日本物理学会第61回年次大会 (愛媛大学) 2006.3)前田 隆治
 機械工学科

Heat Transfer between Two Horizontal Rotating Cylinders (Influence of Natural Convection)
 (ISTP-16 The 16th International Symposium on Transport Phenomena)
 August 30- September, 2005 Prague Czech Republic)高井 純太郎
 (第4回21世紀連合シンポジウム-科学技術と人間-論文 (伊勢) 集, 2005年11月)

ICタグの応用調査と情報管理-高専技術者職業教育の確立に向けて-
木村 剛, 河村 豊, 川北 晃司, 浅野 敬一
 (日本非破壊検査協会・平成17年度第1回応力ひずみ測定分科会講演文集, 2005.6)黒崎 茂, 高田和典
 片面塗付高分子圧電フィルムを用いた一定繰り返し負荷によるひずみ測定法
 (日本機械学会2005年度年次大会講演文集, 2005.9)高田和典, 黒崎 茂
 高分子圧電フィルムを用いた機械式ひずみ測定法の検討
 (日本非破壊検査協会・平成17年度・秋季大会講演文集, 2005.11)黒崎 茂, 杉本 太一郎
 高分子圧電フィルムを用いたひずみ測定 (自由形状の設置電極を付与する方法)
 (日本非破壊検査協会・平成17年度・秋季大会講演文集, 2005.11)増田 龍一, 黒崎 茂, 菊池 章
 ビエンテールを用いたボルト軸力検出
 (日本機械学会 M&M2005材料力学部門講演文集, 2005.11)黒崎 茂, 佐々木 拓樹
 高分子圧電フィルムを用いたひずみ測定法 (高圧電極フィルムによる簡便法)
 (日本非破壊検査協会・第17回応力・ひずみ測定と強度評価シンポジウム講演文集, 2006.1)増田 龍一, 黒崎 茂
 増田龍一のための圧電性材料の試作
 (日本非破壊検査協会・第17回応力・ひずみ測定と強度評価シンポジウム講演文集, 2006.1)須永 直樹, 黒崎 茂
 高分子圧電フィルムを用いたたじろによるせん断ひずみ測定
 (日本非破壊検査協会・第17回応力・ひずみ測定と強度評価シンポジウム講演文集, 2006.1)小針 進, 黒崎 茂
 ビエンテールを用いたボルトの引張・せん断荷重下の軸力測定
 (日本機械学会関東支部第181期総会講演文集, 2006.3)田村 信一, 黒崎 茂
 ビエンテールを用いたひずみ測定
 (日本機械学会講演文集, 2006.3)黒崎 茂
 タツシロの動作付トルクに及ぼす山形歯の影響 (日本機械学会関西支部第181期総会講演文集, 2006.3)
増田 龍一, 舟山 龍弘, 小林 光男, 伊藤 拓樹, 山崎 実, 鈴木 岳夫
 小ねじの動作付特性 (日本機械学会関西支部第181期総会講演文集, 2006.3)小針 進, 黒崎 茂, 田村 信一, 山本 晴生
 チタニウム合金製トルクの動作付特性に及ぼす潤滑効果 (日本機械学会北陸信越支部第13期総会・講演文集, 2006.3)
田中 登, 田中 淳彦, 小林 光男, 増田 龍一, 舟山 龍弘

Rapid activated sludge respiration inhibition test performed by CO₂ producing rate using a carbon dioxide sensor
 (Journal of Environmental Science and Health) A40-11, 2005, pp 1587-1596
Noboru NARITA, Mitsuo TAKAHASHI, Ryo SHOJI
 身近な自然環境に關した化学物質の生体影響試験 (化学と教育) 53, 6, 2005, pp 333-334佐 明良
 発光 UMU センサーを用いた迅速簡便な遺伝子毒性試験 (学会誌 EICA) 10, 3, 2005, pp 63-69
河上 昭人, 庄司 晃, 田中 昌幸, 田口 和之, 平井 正名, 今村 孝夫, 山田 正人, 毛村 敬乃
 カラム装置を用いた超微量一級反応・超微量処理/反応土壌による水中のリン除去
 (水環境科学誌) 第28巻 5号, 2005.5, pp 327-332江藤 崇, 藤田 友隆, 三谷 知世
 リン酸イオンを吸着した超微量一級反応・超微量処理/反応土壌のリン再生及び使用済みリン吸着剤の再利用
 (水環境科学誌) 第28巻 9号, 2005.9, pp 575-580江藤 崇, 藤田 友隆, 三谷 知世, 野々山 崇
 高分子材料の炭素特性に関する研究 I
 (日本材料科学会誌) 第39巻 3号, 2005.9, pp 31-34佐藤 彰, 藤崎 章
 抹茶の気流特性 (東京高専研究報告書) 第37(2)号, 2006.1, pp 93-96青木 裕亮, 菊池 章
 Synthesis and properties of gold nano particle-polyimide hybrid materials
 (Material Technology) 24(1), 2005, pp 35-42)
Yunshibia, Takashi Miyamoto, Takao Kato, Jun Yoneyama, Michi Machida, Shigeru Maekawa, Yasuiri
 Theoretical study of nuclear reactions induced by Bose-Einstein condensation in Pd
 (Condensed matter nuclear science, 2005.10, pp 694-702)K. Tsuchiya and H. Okumura
 Quantum states of deuterons in Palladium (Condensed matter nuclear science, 2005.9, pp 801-807)K. Tsuchiya
 Bose-Einstein condensation and nuclear reaction in Solids
 (Proceedings of the 6th meeting of Japan CF Research Society, 2005.8, pp 78-81)
H. Okumura and K. Tsuchiya
 Immobilization and enzymatic activity of glucose oxidase on polyethylene surface modified
 with ozone aeration and UV irradiation in distilled water and/or aqueous ammonia solution
 (COLLOID AND SURFACES B: BIOTECHNOLOGY, Vol. 48, 2006, pp. 65-71)
Ken Yonagisawa, Takuro N. Murakami, Yoshizawa Tokoska, Akira Ochiai,
 Mitsuo Takahashi, Norimichi Kawasaki.

2. 学会における口頭発表
 一般教科 (人社会・英語系)

有次郎日記に見る科学者職業教育-職科科学史の一面- (日本科学史学会, 52回年次大会, 2005.6)河村 豊
 工学系および人文・社会科学系教員による科目設計の試み-高専技術者職業教育の確立に向けて-
 (第4回21世紀連合シンポジウム-科学技術と人間-論文, 2005.11)木村 剛, 河村 豊, 川北 晃司, 浅野 敬一
 Japanese Wartime Science Policy, 1931-1945
 (Symposium 10, "War and Science" XXII International Congress of History of Science, Beijing, 28 July, 2005)
Yutaka Kawamura
 シャドローイングによる日本人英語学習者の困難
 (外国語教育メディア学会関西支部 第5次基礎理論研究会, 2005.11)黒 智子
 シャドローイングにおける日本人英語学習者の発音の変化 (JACET 関西支部 学習英文法研究会, 2005.12)黒 智子
 Difficult areas that Japanese learners of English have in shadowing
 (日本英語教育学会第10回記念大会, 2005.11)黒 智子
 高専1年生を対象とした英文多読指導の実践
 (Teaching Extensive Reading to the First Year Students at College of Technology)
 (平成17年度日本工科大学教育学会第53回年次大会, 2005.8)竹田 直美, 黒 智子
 高専1年生を対象とした英文多読指導の実践 (第4回多読教育学会ワークショップ, 2005.9)竹田 直美, 黒 智子
 リーディング処理効率化技術としてのシャドローイングの実践とその効果-予備調査
 (全国英語教育学会, 2005.8, 北海道教育大学札幌校)竹田 直美, 黒 智子

(出典 東京工業高等専門学校研究報告書)

<p>14 東京工業高等専門学校研究報告書 (第 38(1)号)</p> <p>III-1 異質化合物 Gate の作製と調製過程 (技術情報協会講演大会, 第13期, 2006)……伊藤 浩, 大山昌彦 電子ビーム照射による GaSe 薄膜成長と光特性 (深田研習会講演大会, 第12期, 2005) ……大山昌彦, 伊藤 浩 シリコン (表面科学協会講演大会, 第12期, 2005) ……伊藤 浩, 大山昌彦 電子ビーム蒸着法による GaSe 薄膜の調製過程 電子ビーム蒸着法による GaSe 薄膜の調製過程 (第66回, 2005) ……伊藤 浩, 大山昌彦 電子ビーム蒸着法による GaSe 薄膜の調製過程 (第66回, 2005) ……伊藤 浩, 大山昌彦 PID 制御による 3 相性系の GaSe 薄膜成長と構造評価 最小次元プロセスを用いた 3 相性系の GaSe 薄膜成長と構造評価 (平成18年電気学会全国大会, 2006.3) ……松井義弘 PI 制御による GaSe 薄膜の調製過程 (第1回電子情報通信学会東京支部学生研究会発表会, 2006.3) ……松井義弘 電子工学科 OPE インスタートの実験 (情報処理教育研究会論文集, 25, 2006.8, pp.87-90) OPE インスタートの実験 (情報処理教育研究会論文集, 25, 2006.8, pp.87-90) ……白石啓一, 山本啓一, 梶山和彦, 本間啓彦, 原元明, 梶山和彦, 梶山和彦 OPE インスタートの作成 (情報処理教育研究会論文集, 2006.3, pp.411-412) OPE インスタートの作成 (情報処理教育研究会論文集, 2006.3, pp.411-412) ……白石啓一, 梶山和彦, 原元明, 山本啓一, 本間啓彦, 梶山和彦 東京高等電子工学科における情報教育の取り組み 東京高等電子工学科における情報教育の取り組み (平成17年度工学・工学教育研究発表論文集, September, 2005, pp.504-508) 東京高等電子工学科における情報教育の取り組み (平成17年度工学・工学教育研究発表論文集, September, 2005, pp.504-508) ……大塚友彦, 加藤 祐, 青木宏之, 村田賢敏, 福井賢敏, 正木 進 拡張現実技術を用いたリアルタイム映像出力装置の開発 拡張現実技術を用いたリアルタイム映像出力装置の開発 (2006年電子情報通信学会全国大会講演論文集, 情報システム12分冊, March, 2006, pp.124) 拡張現実技術を用いたリアルタイム映像出力装置の開発 (2006年電子情報通信学会全国大会講演論文集, 情報システム12分冊, March, 2006, pp.124) ……渡辺大輔, 大塚友彦, 三宅賢也, 青木宏之 周所 2 層化による輪郭情報を用いたカラー画像からの輪郭抽出 周所 2 層化による輪郭情報を用いたカラー画像からの輪郭抽出 (2006年電子情報通信学会全国大会講演論文集, 情報システム12分冊, March, 2006, pp.132) 周所 2 層化による輪郭情報を用いたカラー画像からの輪郭抽出 (2006年電子情報通信学会全国大会講演論文集, 情報システム12分冊, March, 2006, pp.132) ……藤原善太郎, 大塚友彦, 青木宏之 学輪に於ける画像処理技術 学輪に於ける画像処理技術 (特許庁/新産業基盤推進2005特許推進フェア in 東京, November, 2005) ……大塚友彦 カラートラッキングからの動き情報を付加した動画画像抽出手法 カラートラッキングからの動き情報を付加した動画画像抽出手法 (第3回情報科学技術フォーラム講演論文集, 第3分冊, September, 2005, pp.109-110) ……藤原善太郎, 大塚友彦, 青木宏之 東京高等電子工学科における電子工学の教育 東京高等電子工学科における電子工学の教育 (社団法人日本工学教育協会平成17年度工学・工学教育研究発表会, 2005.9) 東京高等電子工学科における電子工学の教育 (社団法人日本工学教育協会平成17年度工学・工学教育研究発表会, 2005.9) ……小池清之, 青木宏之, 廣毛哲郎, 福井賢敏, 村田賢敏 Evaluation of Gas Sensor of TiO2 Thin Films by CH4-GFS Source Evaluation of Gas Sensor of TiO2 Thin Films by CH4-GFS Source (MRS Materials Research Society) 2005 Fall Meeting, Nov. 28-Dec. 2, Boston, MA) ……K. Oguri, M. Iwase, H. Nishino, M. Yamazaki, and S. Masaki Evaluation of Gas Sensor of TiO2 Thin Films by CH4-GFS Source (MRS Materials Research Society) 2005 Fall Meeting, Nov. 28-Dec. 2, Boston, MA) ……K. Oguri, M. Iwase, H. Nishino, M. Yamazaki, and S. Masaki Palladium oxide composite films containing palladium metal phase fabricated by reactive ion beam sputter-deposition Palladium oxide composite films containing palladium metal phase fabricated by reactive ion beam sputter-deposition (American Vacuum Society 52nd International Symposium, TF-Mo791, Boston, MA Oct, 2005) ……T. Ichinobe, S. Masaki and K. Kawasaki Al/Zn 金属複合ターゲットを用いたアルミニウム添加酸化亜鉛薄膜の形成 Al/Zn 金属複合ターゲットを用いたアルミニウム添加酸化亜鉛薄膜の形成 (05 SAS インテリアシンポジウム予稿集, F-1, 2005.11, p.69) ……増田祐一, 一戸隆久, 正木 進 円筒型マグネトロンガスフローパワリング (CM-GFS) を用いた Pt 添加 TiO2 薄膜のガスセンサーへの応用 円筒型マグネトロンガスフローパワリング (CM-GFS) を用いた Pt 添加 TiO2 薄膜のガスセンサーへの応用 (OSSAS インテリアシンポジウム予稿集, F-2, 2005.11, pp.70) 円筒型マグネトロンガスフローパワリング (CM-GFS) を用いた Pt 添加 TiO2 薄膜のガスセンサーへの応用 (OSSAS インテリアシンポジウム予稿集, F-2, 2005.11, pp.70) ……杉山謙一, 岩瀬謙一, 西野寛之, 本間啓彦, 正木 進 円筒型マグネトロンガスフローパワリング (CM-GFS) を用いた Pt 添加 TiO2 薄膜のガスセンサーへの応用 (OSSAS インテリアシンポジウム予稿集, F-3, 2005.11, p.71) 円筒型マグネトロンガスフローパワリング (CM-GFS) を用いた Pt 添加 TiO2 薄膜のガスセンサーへの応用 (OSSAS インテリアシンポジウム予稿集, F-3, 2005.11, p.71) ……山崎善博, 岩瀬謙一, 西野寛之, 西野寛之, 一戸隆久, 正木 進</p>	<p>15 平成17年度会報教育研究業績</p> <p>マイクロアークにおける電極特性評価 (第2報) マイクロアークにおける電極特性評価 (第2報) (日本機械学会北海道支部40周年記念講演会, 2005.10) ……福田勝己, 小林光男, 井田雄大, 新井直広 マイクロアークにおける電極特性評価 (第2報) (日本機械学会北海道支部40周年記念講演会, 2005.10) ……福田勝己, 小林光男, 井田雄大, 新井直広 プラズマ処理装置によるタンタム合金製ボルトの特性 プラズマ処理装置によるタンタム合金製ボルトの特性 (第49回日本学会先進材料研究発表会, 2005.9) ……福田勝己, 小林光男, 井田雄大, 新井直広 ナインランディング・オン・エッジによるタングステン・エッジの強度評価 (日本機械学会 関東支部プロテック台同講演会, 2005.9) ナインランディング・オン・エッジによるタングステン・エッジの強度評価 (日本機械学会 関東支部プロテック台同講演会, 2005.9) ……福田勝己, 小林光男, 伊藤拓嗣, 香山弘弘, 山崎 亮, 松本英夫 ねじ締結におけるナットの劣化分布解析 (日本機械学会 関東支部プロテック台同講演会, 2005.9) ねじ締結におけるナットの劣化分布解析 (日本機械学会 関東支部プロテック台同講演会, 2005.9) ……久保田義弘, 小林光男, 海野仁史, 福田勝己, 田中道彦, 田中 登, 中村 保 高圧圧縮におけるねじ締結の材料特性 (第49回日本学会先進材料研究発表会, 2005.9) ……久保田義弘, 小林光男, 海野仁史, 福田勝己, 田中道彦, 田中 登, 中村 保 ハイブリッド工法による高速加工の性能評価 (第56回回響性加工連合講演会, 2005.11) ……小林光男, 田中道彦, 伊藤拓嗣, 福田勝己 ハイブリッド工法による高速加工の性能評価 (第56回回響性加工連合講演会, 2005.11) ……小林光男, 田中道彦, 伊藤拓嗣, 福田勝己 複合材料の再利用技術開発 (平成17年度回響性加工春季講演会, 2005.5) ……水村 南, 水村 慶 複合材料の再利用技術開発 (平成17年度回響性加工春季講演会, 2005.5) ……水村 南, 水村 慶 炭素繊維複合材料を利用したウェアラブルコンピュータの開発 炭素繊維複合材料を利用したウェアラブルコンピュータの開発 (2005年マイタロメカトロニクス学術講演会, 2005.9) ……水村 南, 水村 慶 炭素繊維複合材料を利用したウェアラブルコンピュータの開発 (2005年マイタロメカトロニクス学術講演会, 2005.9) ……水村 南, 水村 慶 低圧射出成形用 CFRP 製の開発 (第56回回響性加工連合講演会, 2005.11) ……水村 南, 水村 慶 低圧射出成形用 CFRP 製の開発 (第56回回響性加工連合講演会, 2005.11) ……水村 南, 水村 慶 AlZn の浸透合金成形技術の開発 (第56回回響性加工連合講演会, 2005.11) ……水村 南, 水村 慶 AlZn の浸透合金成形技術の開発 (第56回回響性加工連合講演会, 2005.11) ……水村 南, 水村 慶 炭素繊維複合材料の成形技術の開発 (第56回回響性加工連合講演会, 2005.11) ……水村 南, 水村 慶 炭素繊維複合材料の成形技術の開発 (第56回回響性加工連合講演会, 2005.11) ……水村 南, 水村 慶 CFRP 製手工具の成形技術の開発 (第56回回響性加工連合講演会, 2005.11) ……水村 南, 水村 慶 CFRP 製手工具の成形技術の開発 (第56回回響性加工連合講演会, 2005.11) ……水村 南, 水村 慶 Al と CFRP の界面形成技術の開発 (第56回回響性加工連合講演会, 2005.11) ……水村 南, 水村 慶 Al と CFRP の界面形成技術の開発 (第56回回響性加工連合講演会, 2005.11) ……水村 南, 水村 慶 環境教育としての応用済み炭素繊維の圧縮成形性についての考察 環境教育としての応用済み炭素繊維の圧縮成形性についての考察 (第56回回響性加工連合講演会, 2005.11) ……水村 南, 成澤大一 環境教育としての応用済み炭素繊維の圧縮成形性についての考察 (第56回回響性加工連合講演会, 2005.11) ……水村 南, 成澤大一 飛散防止を考慮した炭素繊維強化樹脂部材の試作 (第56回回響性加工連合講演会, 2005.11) ……水村 南, 成澤大一 飛散防止を考慮した炭素繊維強化樹脂部材の試作 (第56回回響性加工連合講演会, 2005.11) ……水村 南, 成澤大一 CFRP 製カート用排気管の試作 (CFRP 製エンジン部品の試作その3) CFRP 製カート用排気管の試作 (CFRP 製エンジン部品の試作その3) (第56回回響性加工連合講演会, 2005.11) ……水村 南, 成澤大一 CFRP 製カート用排気管の試作 (CFRP 製エンジン部品の試作その3) (第56回回響性加工連合講演会, 2005.11) ……水村 南, 成澤大一 CFRP 製高圧性部材の開発 (第56回回響性加工連合講演会, 2005.11) ……水村 南, 成澤大一 CFRP 製高圧性部材の開発 (第56回回響性加工連合講演会, 2005.11) ……水村 南, 成澤大一 CFRP/Al 合金材料材料製造電子部品成形技術 (第56回回響性加工連合講演会, 2005.11) ……水村 南, 成澤大一 CFRP/Al 合金材料材料製造電子部品成形技術 (第56回回響性加工連合講演会, 2005.11) ……水村 南, 成澤大一 CFRP の射出成形品の試作 (第56回回響性加工連合講演会, 2005.11) ……水村 南, 成澤大一 CFRP の射出成形品の試作 (第56回回響性加工連合講演会, 2005.11) ……水村 南, 成澤大一 Web を利用した生産管理・材料管理システム (第56回回響性加工連合講演会, 2005.11) ……水村 南, 成澤大一 Web を利用した生産管理・材料管理システム (第56回回響性加工連合講演会, 2005.11) ……水村 南, 成澤大一 RFID・QR コードを利用した炭素繊維複合材料の開発と電子機器への応用 RFID・QR コードを利用した炭素繊維複合材料の開発と電子機器への応用 (第56回回響性加工連合講演会, 2005.12) ……水村 南 RFID・QR コードを利用した炭素繊維複合材料の開発と電子機器への応用 (第56回回響性加工連合講演会, 2005.12) ……水村 南 検査・分組・解体・環境教育—超絶性から複合材料, そして環境・ユニバーサルデザインへ— 検査・分組・解体・環境教育—超絶性から複合材料, そして環境・ユニバーサルデザインへ— (第35回 FRP シンポジウム, 2006.3) ……水村 南, 小笠原友 検査・分組・解体・環境教育—超絶性から複合材料, そして環境・ユニバーサルデザインへ— (第35回 FRP シンポジウム, 2006.3) ……水村 南, 小笠原友 深い円筒方向性を有する特殊形状の炭素繊維による炭素繊維強化樹脂 (第56回回響性加工連合講演会, 2006.3) ……水村 南 深い円筒方向性を有する特殊形状の炭素繊維による炭素繊維強化樹脂 (第56回回響性加工連合講演会, 2006.3) ……水村 南 地球温暖化防止のための炭素繊維等における中層パワーストック蓄積技術の開発 (第56回回響性加工連合講演会, 2005.9) ……清水愛史, 菅野謙子 地球温暖化防止のための炭素繊維等における中層パワーストック蓄積技術の開発 (第56回回響性加工連合講演会, 2005.9) ……清水愛史, 菅野謙子 電気工学科 A Trial to Explain Arc Duration at a Break Contact A Trial to Explain Arc Duration at a Break Contact (電子情報通信学会機械アライズ研究会 (国際セッション) 2005.11) ……Kaichi SUHARA A Trial to Explain Arc Duration at a Break Contact (電子情報通信学会機械アライズ研究会 (国際セッション) 2005.11) ……Kaichi SUHARA 断線線路におけるアーチ継続時間の測定—一回路インダクタンスと電極材料の影響— 断線線路におけるアーチ継続時間の測定—一回路インダクタンスと電極材料の影響— (2006年 電子情報通信学会学術大会, 2006.3) ……須藤啓一 断線ノックアウト断線技術教育システム (LCC) の検討—開発概要— 断線ノックアウト断線技術教育システム (LCC) の検討—開発概要— (電気学会教育フロンティア研究会, 2006.3, FTE-06-12) ……宮本孝英, 土井 淳 断線ノックアウト断線技術教育システム (LCC) の検討—開発概要— (電気学会教育フロンティア研究会, 2006.3, FTE-06-12) ……宮本孝英, 土井 淳 平面波入射による開口球殻内部の電磁場分布 平面波入射による開口球殻内部の電磁場分布 (平成17年度電気学会基礎・材料・共通部門大会, 1-5, August 22, 2005) ……伊藤 彰, 日向 隆, 細井敏夫 平面波入射による開口球殻内部の電磁場分布 (平成17年度電気学会基礎・材料・共通部門大会, 1-5, August 22, 2005) ……伊藤 彰, 日向 隆, 細井敏夫</p>
--	--

56 東京工業高等専門学校研究報告書 (第 38(1)号)

Its Applications in Communications, 2005-10, pp. 152-155).....Tetsuya Kojima and Masahiro Aono.
On the Bit-Error Rate Performance of the Signal Design Methods for the CDMA Systems
Using Complete Complementary Codes
(第28回情報理論とその応用シンポジウム予集集, 2005-11, pp. 523-526)
.....Tetsuya Kojima and Masahiro Aono.
圧電素子を用いたマイクロミミックマイクロロボットに関する研究 (第3報)
(情報工学会, 秋季大会講演要旨集, pp.175-176)
.....城山直樹, 川村裕介, 内田勝大, 松林勝志, 小坂敏文, 青山尚之
圧縮伝送アクチュエータ制御によるトランスバース変圧器
(日本機械学会流体工学部門講演会講演要旨集, 0512-11201)
.....松林勝志, 小坂敏文, Alan VARDY, Jim BROWN

物質工学科

A Modified Preparation Method for (Acetylacetonato) (phthalocyaninato) gadolinium (III) and Its Properties
(17th Asian Chemical Congress (17th ACC2005), Seoul, August 24-26, 2005).....T. Ishizuka and S. Kudo.
Evaluation of Carbon Nanotube Particles as an Electrode Material for Electrochemical Measurements
(17th Asian Chemical Congress (17th ACC2005), Seoul, August 24-26, 2005)
.....S. Kudo, K. Ogura, H. Matsuoka, D. Shindo, T. Kamaya, and H. Kuroki.
Formation of the Trinuclear Complex by the Reaction of Lanthanides (III) of Oxide
with Diethylenetriaminepentaacetate Acid in Aqueous Solution
(The 2005 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PACIFICHEM2005), Honolulu,
Hawaii, December 15-20, 2005).....T. Matsui, S. Kudo, Y. Minamoto, H. Kuroda, Y. Kando, and Y. Fukuda.
アルミナ溶媒電解槽に伴う重鉛カソードの電気特性変化
(第32回炭素材料学会年会, 2005.12.1A10).....阿久沢昇, エスターカフ, 伊藤かおり, 岡本龍也, 黒田孝二
炭酸中での電解分極に伴う重鉛の電気特性変化 (第32回炭素材料学会年会, 2005.12. p45).....阿久沢昇, 竹村洋
黒鉛粉末の化学修飾と導電体の特性
(第32回炭素材料学会年会, 2005.12. p94).....阿久沢昇, 野村洋輔, 土屋賢一, 玉田健治, 岩佐山大
PGS グラフアイトシートをホストとする超導間化合物のキャタリスト作用
(第32回炭素材料学会年会, 2005.12. p71).....松本里香, 阿久沢昇, 高橋洋一
電解水による黒鉛電極の劣化 (2005年度電気化学会秋季大会, 2005.9).....水川定之, 北村幹彦
ハイモル圧電体を用いた女性用むだ毛処理器の開発 (2005年度電気化学会秋季大会, 2005.9).....後藤ユキ, 北村幹彦
脱気水の高温への応用 (2005年度電気化学会秋季大会, 2005.9).....有田千尋, 北村幹彦, 栗山浩司, 中村幹彦
水晶共振子マイクロバランズ測定法を用いた金属膜の特性評価
(2005年度電気化学会秋季大会, 2005.9).....田沼大輔, 高橋三男, 北村幹彦, 中村幹彦
脱気水を用いた脱汚染水の発生
(2005年度電気化学会秋季大会, 2005.9).....関戸広太, 北村幹彦, 高橋三男, 中村幹彦
OCM法を用いた無機化学的強誘電体
(2005年度材料技術研究会秋季大会, 2005.12).....関戸広太, 田沼大輔, 北村幹彦, 高橋三男, 中村幹彦
Investigation of the vertical toxicity distribution of acid waste landfill sites by boring core samples
(SETAC North America26th Annual Meeting 2005.11)
.....R. Shoji, H. Nakayama, H. Asakura, T. Mizui, M. Ishii, M. Abe, M. Yamada
Validation of a new-developed biosensor to evaluate geotoxicity and cytotoxicity
of various environmental water samples (SETAC North America26th Annual Meeting 2005.11)
.....M. Kawakami, R. Shoji, S. Mohri, M. Yamada, Y. Inoue, Y. Tanaka, K. Taguchi, H. Ishii, M. Hirai, T. Imaeda
遠心分離コーティングコアオプティセを用いた有害性評価 (第16回環境毒理学学会研究発表会, 2005.11)
.....中山秀雄, 庄司 良, 三谷知雄, 石井崇幸, 山田正人, 朝倉 宏, 安部 誠

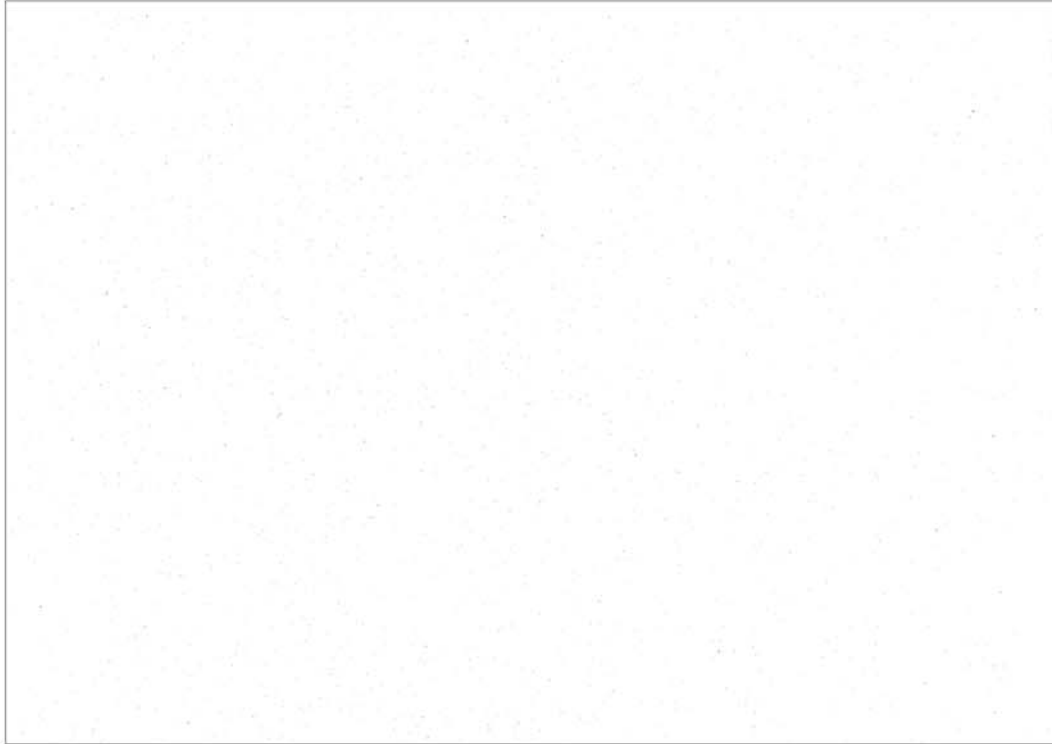
55 平成17年度全国教育研究報告書

円型型マグネトロントラップ (CM-GFS) 素を用いた Pt 添加 TO2 層の触媒活性評価
(USSAS インテリジェントシンポジウム予集集, 2005.11, F-5 p. 73)
.....本間一, 岩瀬直也, 黒野寛之, 杉山健一, 小柴和也, 西義武, 一戸隆入, 正木 進
CM-GFS 素を用いた Pt 添加 TO2 層の触媒活性評価 (第3回ナノ学会講演会予集集, F53-30, 2005.5)
.....黒野寛之, 山崎賢治, 中村広平, 岩瀬直也, 小柴和也, 西義武, 一戸隆入, 正木 進
水素ラジカルによる結晶 Si 表面のフォスファチン
(第16回応用物理学会講演要旨集, 2005年).....水吉 浩, 西村幹彦, 寺島一高
CaF2 結晶の成長及び光学効果
(第16回応用物理学会講演要旨集, 2005年).....寺島一高, 丹治裕道, 西村幹彦, 水吉 浩
水素ラジカルによる結晶 Si 表面のフォスファチン
(第32回応用物理学会講演要旨集, 2006年).....高橋裕太, 西村幹彦, 寺島一高, 水吉 浩
有機太陽電池における TiO2/バリウム層形成条件の効果
(第32回応用物理学会講演要旨集, 2006年).....植原聖司, 鈴木大輔, 水吉 浩
活性炭による低濃度 NOx の吸着脱着
(分業技術学会年会, 2005, 2005.6).....加藤浩, 黒山和弘, 吉澤祐樹, 加藤寛, 長沼邦雄
東京工業大学工学部におけるマイコン技術教育の成果と課題
(社団法人日本工科大学協会平成17年度工学・工業教育研究発表会, 2005.9)
.....青木史之, 小畑清之, 植原聖志, 村田賢敏, 沼田弘樹

情報工学科

東京工業高等専門学校情報工学科における信考処理教育とその展望
(第7回 DSIS 教育委員会報告集, Sept. 2005, pp. 37-40).....小畑清也, 吉本定伸, 小坂敏文
制御工学導入のための基礎的モータ制御実験書
(東京工業高等専門学校研究報告書第371号, Sept. 2005, pp. 37-40)
.....小坂敏文, 吉本定伸, 西村 英, 松林勝志
2次経路モデルを必要としない ANC アルゴリズムに関する考察
(第5回回音壁研究会発表要旨集 (八王子産学公連機構), Dec. 2005, pp. 58-59).....芹澤亮輔, 吉本定伸
DSP を用いたアナライズ/インテリジェントコントローラに関する検討
(第3回東京工業大学工学部研究発表会予集集, 302, March, 2006).....相良賢太, 吉本定伸
職業教育を育てるための体系的教育の取り組み - 保護者の参加と企業との連携による体系的学習 -
(第10回日本工学教育協会 工学・工業教育研究発表会講演要旨集, 6-107, July, 2005)
.....鈴木 孝, 植原聖志, 吉本定伸, 青野正志, 小坂敏文, 中村 洋
文精選における検索キーワード間の接続-接続関係に基づく WWW 検索精度の向上
(電子情報通信学会技術研究報告 (百選理論とコミュニケーション), NLC2005-114-125,
2005.2, pp. 7-12).....松本孝代, 小西達雄, 高木 剛, 小山田夫, 三宅野雄, 伊東幸宏
見出しの階層関係を利用した WWW 検索精度の改善
(電子情報通信学会技術研究報告 (百選理論とコミュニケーション), NLC2005-114-125, 2005.2, pp. 1-6)
.....山口直樹, 松本孝代, 小西達雄, 高木 剛, 小山田夫, 三宅野雄, 伊東幸宏
かな文字の情意的分類に基づくかな書道文字列の自動生成に関する検討
(電子情報通信学会2006年総会大会, 2005.3).....山岡 貴, 黒田直平, 山下静男, 松本孝代, 鈴木理人, 中村 洋
代数幾何付与符号列における生成元での階数情報を用いた未知シフトドーム判定の一考察
(第20回情報理論とその応用シンポジウム, 2005.11, pp.551-554).....中村 洋, 松本孝代, 鈴木理人
乱数表を利用した暗号符号列の生成
(情報処理学会研究報告 (IT情報処理), 2006-IBCPr-13, 2006.1, pp. 218-224)
.....青野正志, 小畑清也
マイクロプロセッサを用いたマルチメディア通信回路に関する研究
(電子情報通信学会2006年総会大会, 2006.3).....植原聖志, 小畑清也, 青野正志
Comparison of the Two Signal Design Methods in the CDMA Systems
Using Complete Complementary Codes under Various Modulation Schemes
(The Second International Workshop on Sequence Design and

(出典 東京工業高等専門学校研究報告書)



59

平成17年度会費員教育研究業績

圧縮の課題による余剰領域を利用したマルチメディア概念送方式に関する研究
研究発表要旨書 科学研究奨励金 基礎研究C 課題番号 13500801

自己組織化分子膜の微細パターンニングを用いたナノ光子素子研究成果報告書
高松研究C(2) 課題番号1455229 (2005.6) ……青野正宏 (代表), 市村 洋, 小嶋徹也

新世紀型理工系教育の展開研究 (特定領域研究)
平成17年度中間報告 A02班, 課題番号17011070(手作り) 藤本センヤによる探査型理科教育の教材開発
2005.2 ……高橋三男, 楠原正光, 筒井義弘, 坂本 貴, 川島敏道

手作り授業センヤによる自然現象教材の開発 (財団法人理工学振興会)
平成16年度教育研究助成金成果報告書 2005.4 ……高橋三男

手作り授業センヤによる理科教育の教材開発 (第31回日産学術研究・教育助成会)
理科・環境教育助成金成果報告書 2005.10 ……高橋三男

超境界状態を利用した新規酵素含有リボソームの開発とセンサへの応用
研究発表報告書 課題番号16651080 (2006.3) ……阿部 茂 (研究代表者), 阿部正彦

検査機器に関する懇話会報告書 (財団法人理研局委託, 一村信吾 (座長), 第5号) ……下井信浩

高速鉄道トンネル周辺での急激な温度上昇を抑制したアクティブ消音装置の開発
(基礎研究C(2), 課題番号16310070, 2004-2005) ……松林敏志

数式ワープロを用いた設計ラブリの開発に関する学術奨励
(奨学寄付金, テレフジネットワークメーション, 2005) ……松林敏志

(3) 特許など

特許: 押圧力検知型センサ及びそれを使用した警報装置 特許第3689260 (2005.6.17) ……下井信浩
特許: 電磁波の速度制御装置 特許第3667547 (2005.4.15) ……松井義弘, 西田英幸, 宮下 聡

(4) 解説・研究ノート・エッセイなど

J・フラインバーク無選波法除塵反応と不特定な生活結露
(「生命科学における倫理的社会的諸問題 Ⅲ」平成16年度科学研究費基盤研究0(1)
課題番号1523002, 2006, pp.1-30) ……川北晃司

【日本建築事典】(東京堂出版, 数項目執筆, 2005.9刊) ……竜戸真智子
ミシンコヒネス (朝日新聞) 2005.6.14 ……北野典之
【東京工業高等専門学校・学生相談室だより】(No.29-32, 2005.4.-2006.2.) ……右藤正俊
【東京工業高等専門学校・学生相談室だより】(第5号, 2006.3) ……古屋正俊, 大澤 昇, 小杉曉子, 白崎由香里
【東京工業高等専門学校・学生相談室のご案内-学生支援のためのメンタルヘルス・ガイド-
(2005.4) ……古屋正俊, 大澤 昇, 小杉曉子, 白崎由香里

デジタル技術による音楽文化の発展 (音楽文化推進) 第39号, 2006.1 pp.28-31) ……鈴木 孝
原稿のドライトロフィー—音階法とマイクログラフを中心—
(月刊ドライトロフィー) (2006.2) ……黒田勝己, 小林光男, 鈴木健司

ナノインテンション法によるねじ微細体 (ボルト) の強度評価
(「材料設計技術」Vol.51 No.1 pp.3-7) ……黒田勝己, 小林光男
【日用品でラジエを作ろう!】 森ラジエ
(国立科学博物館2005夏休みキッズエンタテインメント用テキスト, 2005.8) ……小池清之
溶け融液による表面処理: ポリマーの表面改質および包膜増大と原油の低温作動への応用
(Material Technology Vol.23, No.1, 2005, pp.16-25) ……村上拓郎, 黒田三男, 宮坂 力, 川島敏道

アクティブ消音—ダクト系でのアクティブノイズコントロール—
(朝日本業製鋼工業会技術講習会テキスト “騒音対策の基礎と考え方” pp.47-54, 2006.11) ……森下道哉

(出典 東京工業高等専門学校研究報告書)

観点A-1-③： 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

研究活動等の実施状況や問題点の把握は、地域連携テクノセンターや技術懇談会などで、それぞれ把握し、改善にむけて検討するよう体制が整備されており、機能している。例えば、地域連携テクノセンターでは年度の活動報告をまとめ、問題点を把握した上で次年度の活動方針などを定めるようにしている。改善がはかられた例としては、資料A-1-③-2のような事例があげられる。

平成18年度の活動報告書は資料A-1-③-1のとおりであるが、地域連携テクノセンターの研究活動の改善は、地域連携テクノセンターで検討し、改善策を実施していく体制が整備され機能している(資料A-1-③-1)。なお、問題によっては、運営会議の審議を経て実施していく。技術懇談会の活動の改善は、技術懇談会で検討され実施される(前掲の資料A-1-①-8事業実施報告のような懇談会で検討)。全般的な研究活動の改善は、運営会議で検討されるシステムになっている(前掲の資料11-1-①-2)。自己点検・評価報告書に記載された改善例は、資料A-1-③-2に示されている。この例では、平成12年度の報告において、研究センターの見直しに関する議題が取り上げられた。このような本校の大きな改革にかかわる事例の場合は、それぞれの組織ではなく、運営会議でも検討されるシステムになっている。

(分析結果とその根拠理由)

地域連携テクノセンター、技術懇談会で、活動内容が検討され、改善が行われる体制となっており、実際に改善が行われている。全般的な研究活動の改善は、運営会議で検討されるシステムになっている。また、改善例は、自己点検・評価報告書にも記載されている。

以上により、研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能している。

資料A-1-③-1

地域連携テクノセンター活動報告(平成18年度)

1. 運営状況(委員会開催状況)

回	日付	主な議題
第1回	4月25日	センター委員の担当・年間計画など
第2回	5月16日	HP・リーフレット・受託試験料金など
第3回	7月18日	企業との勉強会・装置の維持管理費など
第4回	9月19日	全国高専テクノフォーラム・関東信越地区テクノセンター長会議報告など
第5回	11月22日	光造形試作受注・産学公東京技術交流会報告など
第6回	1月16日	SEM寄贈・今後導入すべき装置・シーズ集など

2. 活動内容

イベント

日付	イベント名称	内容
7月20・21日	全国高専テクノフォーラム	パネル展示・リーフレット配布
11月29日	産学公東京技術交流会	技術相談・パネル展示・リーフレット配布
2月16・17日	第6回たま工業交流展	パネル展示・リーフレット配布・産学連携制度の説明

技術相談

時期	企業	相談内容
7月	造園・公園管理	簡単な遠隔開錠セットの開発 光干渉式厚膜測定器の開発
2月	プリント基板製造	接触角測定器の開発 デスマア評価技術 テフロン表面の粗化加工

その他

時期	事項
6月	リーフレット作成
7月	HP開設
8月～12月	企業との勉強会((株)アベックス)
11月	受託試験契約(共栄デザイン)
2月	SEM寄贈

3. 年度末までの予定

時期	内容
3月	SEM寄贈に対する感謝状贈呈式
3月	第7回テクノセンター委員会
3月	補助金応募
3月	シーズ集・装置一覧・受託試験一覧作成

4. 本年度の総括

本年度は昨年度導入された装置の高度教育(専攻科授業等)および地域貢献への活用にチャレンジしたが、地域への活用は不十分であった。HP、リーフレットの作成など新しい展開には意欲的に活動できた。

5. 来年度の方針

新しい専任教員を迎え、守りの姿勢から攻めの姿勢に方向転換する。
光造形機活用の勉強会に結論を出し実行する。たましん(金融機関)との親密な関係を構築する。

(出典 地域連携テクノセンター資料)

資料A-1-③-2

		電動応用プラントの最近のアドバンス制御の応用例
第14回	11.2.17	日本におけるグローバルスタンダード化の実情と問題点 QS9000(ISO9001)取得活動を通して感じたこと
第15回	11.10.21	複素数型連想記憶モデルの画像処理への応用 脳に学ぶ情報処理の展望
第16回	12.3.13	高専新時代と産学連携 東京高専における産学連携の現状と展望 産学連携による地域の活性化 産学連携に望むもの

**第8回は八王子市市民ホールで開催

【パネルディスカッション】

回数	期日	テーマ
第1回	9.3.14	産業構造の変化に対する高等専門学校の持続発展的な技術教育
第2回	10.3.13	企業と高専とのインターンシップのあり方と問題

【刊行物】

行物名	刊行時期
年報 第5号	平成 8年3月
年報 第6号	平成 9年3月
概要	平成10年4月
年報 第7号	平成11年3月
概要	平成12年3月
教育研究情報誌	平成12年3月

5-1-2 研究センターの見直し

上述したように運営委員会の努力により課題に対する研究センターの活動が概して拡がり、奥行きを見せはじめているにもかかわらず、研究センターの活動が全校的な活動へ発展してゆかない実体に対する方策についても検討した。検討結果は、研究センターの活動への全校教官からの協力をうるための運営方針と組織見直しについての校長からの諮問に対する運営委員会の答申としてまとめ、校長へ提出した（平成11年1月27日）。答申の骨子は、組織については、運営のための委員会は学科の枠にとられない専門委員で構成すること、および、外部への窓口として技術相談室を設置すること、である。一方、規則については、研究センターの設置目的と業務内容を上記(i)、(ii)、に沿って規則の中に具体的に示す案を答申した。答申案は校長より各学科での検討が要請され、特段の異議はなく了承されている。ただし、そのその実施については、現在進行中の学校全体の組織・運営見直しと整合性をとる必要もあり、そのその実施については平成12年度以降へ先送りされている。

5-1-3 学内情報のデータベース化と発信

平成10年度まで本校紀要「東京高専研究報告書」の中に収載されていた本校各教官個人の研究教育活動の記録は、平成11年度より研究センターにおいてデータ収集と保管を行うこととなった。データ項目は表5-2の通りである。データ収集の終了した11年度分については Approach を利用してデータベースを構築中であり、当面校内での年度内公

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 研究活動に関する目的を達成するための組織等が整備され機能している。
- ・ 多くの共同研究が実施され成果があがっている。
- ・ 研究を推進する上での外部資金受け入れ状況は良好である。
- ・ 多数の論文等が公表され、研究成果があがっている。また、その結果として教員の学位保持率が非常に高い。

(改善を要する点)

- ・ 特になし

(3) 選択的評価事項Aの自己評価の概要

地域連携テクノセンター・技術懇談会が設置され、活発に活動をしている。また、研究協力係による研究支援体制と文献複写依頼という研究支援体制があり、講演会・研究会も開催されている。

地域連携テクノセンター・技術懇談会などにより、多くの地域連携に関する研究成果があげられている。共同研究に関しても多くの成果があがっている。教育研究に関する成果としては、多数の論文が公表され、特許等の成果にも結びついている。さらに、研究が活発に行われていることが多数の学位保持者を擁していることにつながっている。

地域連携テクノセンター、技術懇談会で、活動内容が検討され、改善が行われる体制となっており、実際に改善が行われている。全般的な研究活動の改善は、運営会議で検討されるシステムになっている。また、改善例は、自己点検・評価報告書にも記載されている。

(4) 目的の達成状況の判断

- ・ 目的達成の状況は、非常に優れている。

IV 選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

1 選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

東京工業高等専門学校では、地域との連携を図るため、また、入学志願者数を増やすために、正規課程の学生以外に対する教育サービスに力を入れてきた。一方、2004年4月の独立行政法人化に伴い、社会貢献が強く求められ、本務のひとつと位置づけられることとなった。独立行政法人国立高等専門学校機構法には「機構以外の者との連携により研究教育活動を行うこと」と規定されている。

これらに対応して、また、本校の「正規課程の学生以外に対する教育サービス」の歴史にかんがみ、東京工業高等専門学校の「正規課程の学生以外に対する教育サービス」における目標は次の2つに大別される。

(1) 一般社会人の生涯教育を支援する目的で、公開講座・その他の教育サービスを実施する。

原則として、一般社会人を対象とする教育サービスである。スポーツ講習など社会人の健康増進を図るための教育サービス、社会人が教養を身に付けるための教育サービス、社会人が職業で役立てるための専門能力を身に付けるための教育サービスなどが含まれる。また、地域社会の企画する講座において実施する講義なども含まれる。これらの教育サービスは、本校教員等の専門知識を活かした内容で実施される。

(2) 小中学生を対象として、公開講座・体験入学・出前授業・その他の教育サービスを実施する。

原則として、小中学生を対象とした教育サービスである。小中学校の児童生徒が平常の授業で体験できない内容の教育サービスを、本校の設備を生かして、または、本校教員等の教育力を活かして実施する。

以上の目標に沿った教育サービスを実施することは、地域社会との連携を強め、本校の社会的評価を高めると共に、本校の教育内容を小中学生に発信し、本校の入学志願者数を増やすことにもつながることが期待される。

現在、日本の教育においては、「理科離れ」という言葉に代表される懸念すべき事態が起きている。理科離れの原因はいくつか挙げられるが、最大の原因は、小中学校の授業において、理科に対する興味を喚起できないことにある。実験を通して理科に対する興味を喚起し、理科の本質を理解させるという高等専門学校の教育は、小中学生にとっても大切なことである。このような意味で、高等専門学校による小中学生を対象とした教育サービスは、広く日本の理科教育に貢献するものである。

2 選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」の自己評価

(1) 観点ごとの分析

観点B-1-①： 高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

(観点到に係る状況)

本校では、公開講座等に関する規定は資料B-1-①-1のように定められており、平成18年度は、主として小中学生を対象とした公開講座、体験教室、出前授業など、合計68件の企画が実施されている(資料B-1-①-2)。また、中学校の理科教員を対象としたパワーアップ研修も実施されている(後掲の資料B-1-①-6)。

このうち、出前授業等は昨年度実績をもとにある程度の計画は立てるものの先方から要請を受けて実施することも多いが、公開講座、体験教室等は、毎年、年間スケジュールを作成して計画的に実施している。平成19年度については資料B-1-①-3、資料B-1-①-4のとおりである。

また、近年行われた公開講座・体験入学等に関するパンフレットの例は資料B-1-①-5の通りである。このように、講座の内容は、各学科または教科の内容に直結したものだけではなく、小中学生が興味を持てるような教材を、理科や工学分野だけでなく、芸術分野などの要素を取り入れるなどして、毎年、工夫を凝らして実施している。

(分析結果とその根拠理由)

公開講座等に関する規定に従って、公開講座、出前授業、体験入学などが、計画的に実施されている。その他、中学校の理科教員に対して理科実験などの指導も行っている。過去の実施状況として、平成18年度は合計68件が企画・実施されており、その対象は小中学生を中心に、内容も多岐にわたっている。また、実施内容についても小中学生が興味をもてるような教材を用意し工夫している。

以上により、教育サービスの目的に照らして、正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されている。

東京工業高等専門学校公開講座実施規則

制定 平成5年12月10日
改正 平成19年4月11日

(目的)

第1条 東京工業高等専門学校（以下「本校」という。）における公開講座及び社会人技術者を対象としたシンポジウム、セミナー（以下「講座」という。）は、本校の持っている専門的、総合的な教育・研究機能を地域社会に開放することにより、生涯学習の場の拡大及び高専の広域の機会とすることを目的とする。

(内容)

第2条 前条の目的を達成するため、次の講座を開講する。

- イ 工業技術に関するもの
- ロ 情報処理に関するもの
- ハ その他

(2) 現代的課題に対処する講座

- イ 国際関係に関するもの
- ロ 環境、資源・エネルギーに関するもの
- ハ 科学技術に関するもの
- ニ 高齢化社会に関するもの
- ホ 情報化の活用に関するもの
- ヘ 生体・健康に関するもの
- ト 学校週5日制の学習機会の場に関するもの
- チ その他

(3) 一般教養等の講座

- イ 文学に関するもの
- ロ 歴史に関するもの
- ハ 社会科学に関するもの
- ニ 自然に関するもの
- ホ その他

(4) 留学講座

- イ 会話に関するもの
- ロ 実用外国語に関するもの
- ハ リーディング・ライティングに関するもの
- ニ その他

(対象者)

第3条 前条の講座は、次の者を対象に開講する。

- (1) 小・中学生、高校生及び大学生
- (2) 職種人
- (3) その他市民一般

(講習料)

第4条 講習料は、独立行政法人国立高等専門学校における授業料その他の費用に関する規則（平成16年独立行政法人国立高等専門学校規程第35条）第14条の規定により取り扱う。ただし、本校の施設として専専の広域や企業等との連携に資する講座については、講習料を徴収しないで開講（以下「無料講座」という。）することができる。

(本条)

第5条 年度間6本以上講座を開講することを目標とし、運営会議において開講する学科学又は各種委

員会の開催を行う。

(計画・広報)

第6条 講座を開講する学科学及び休開委員会の代表者（以下「講座開設代表者」という。）は、講座計画を、前年度の2月末までに別に定める書式により、事務担当へ提出しなければならない。

(開講要項等)

第7条 事務担当は、講座開設代表者と協議のうえ講座開設日の2ヵ月前までに開講要項を作成する。また、有料講座については、予算の執行計画を講座開設日の2ヵ月前までに作成する。

(内容等の変更)

第8条 講座内容等に変更が生じた場合は、講座開設代表者は速やかに事務担当へ報告しなければならない。ただし、有料講座の変更のできる範囲は、次のとおりとする。

- (1) 講座名の変更
- (2) 開校時期の変更
- (3) 開校時期の変更
- (4) 受講対象者の拡大を認める場合
- (5) その他当該計画に大なる変更をきたさない場合

(事務)

第9条 講座の開講に関する事務は、総務課企画係において処理する。

(規則)

第10条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この規則は、平成5年12月10日から施行する。

附 則

この規則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成13年1月25日から施行し、平成13年1月6日から運用する。

附 則

この規則は、平成13年3月19日から施行し、平成13年3月9日から運用する。

附 則

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

資料B-1-①-2

津田広報室長 外車との関連のあるイベント一覧

2007/1/19現在

2006 年度公開講座等一覧

No.	名称	小規模者	紹介文	日程				場所	参加対象者	定員(人数)	予約	備考	内務情報					
				年	月	日	曜						原簿(分)	担当者	TA数	実施経費	謝金	
1	エンジョイ・ハンドボール	(第1回目)	生涯スポーツとしてのハンドボールのゲームを楽しむ	2006	6	10	(土)	東京高専	小学生~高	50~100名								
2	エンジョイ・ハンドボール	(第2回目)	生涯スポーツとしてのハンドボールのゲームを楽しむ	2006	6	11	(日)	東京高専	小学生~高	50~100名								
3	八王子子ども体験塾	暗号の仕組みを知ろう	暗号は奇やスバシ運が強いものではなく、インターネットが普及した現在、私たちの生活の安全のためになくてはならぬものになっている。その暗号は、暗号解読機や暗号解読機を利用して暗号を解いたりして、こどもたちに暗号とは、どのようなものか、どのような用途に使われるのかゲーム感覚で楽しく理解してもらう場を提供する。	2006	7	23	(日)	90 東京高専	小学4~6年生	20名				J科小嶋				
4	八王子子ども体験塾	風に向かって進むフラインドカーを作ろう	子供連に夏休みの自由研究の題材となる物作りを行う。身近にある在室で政策できる「風」に向かって進むフラインドカーを製作する。材料はプラスチックダンボール、輪ゴム、竹串などである。本校の学生が子供4人程度を担当し、各テーブルに先生として子供連に作り方を教えることで、学生との交流も計る。製作終了後はお互いで思いでは知らせる総会をおこなう。小学校低学年の場合は、親子参加とする。	2006	7	23	(日)	120 東京高専	小学生	20名				J科松林				
5	八王子子ども体験塾	英文・多読の楽しみ	英語で読書を楽しむための多読法の紹介と実演の体験	2006	7	24	(月)	90 東京高専	小学生~高	10~15名				G科竹田				
6	八王子子ども体験塾	英文・多読の楽しみ	英語で読書を楽しむための多読法の紹介と実演の体験	2006	7	25	(火)	90 東京高専	小学生~高	10~15名				G科竹田				
7	ときめき化学実験	(1回目)	化学の不思議と魅力を実験しよう	2006	7	28	(金)	東京高専	中学生	30名								
8	ときめき化学実験	(2回目)	化学の不思議と魅力を実験しよう	2006	7	29	(土)	東京高専	中学生	30名								
9	八王子子ども体験塾	ときめき化学実験	実験・実験によって化学や生物の楽しさを知ってもらうことを目標とする。実験テーマは以下の3つで選り、興味のある実験を1~2人のグループで実施し、全参加者が安全に楽しく実験操作を行うことができ、比較的年齢の近いお兄さんのような高専生がTAとして各グループについてアドバイスをする。	2006	7	29	(土)	300 東京高専	小学生	30名				C科石井				
10	八王子子ども体験塾	ときめき化学実験	実験・実験によって化学や生物の楽しさを知ってもらうことを目標とする。実験テーマは以下の3つで選り、興味のある実験を1~2人のグループで実施し、全参加者が安全に楽しく実験操作を行うことができ、比較的年齢の近いお兄さんのような高専生がTAとして各グループについてアドバイスをする。	2006	7	30	(日)	300 東京高専	小学生	30名				C科石井				
11	八王子子ども体験塾	ハードウェア・ソフトウェアの基本を体験してみよう	情報工学とは、どのようなものかを理解するため、ハードウェアとソフトウェアのそれぞれについて実習を通じて理解する。ハードウェアについては、用意されたブレッドボードを用いた加算機の製作を行う。ソフトウェアについては、グラフィックソフトを題材に、モニタディスプレイ画面にプログラムという形を用いて図形を表示させる。それぞれ出来合いのものを利用して仕上げた後、ものづくりの楽しさを実験して科学技術に興味を持つことを目的とする。	2006	7	31	(月)	450 東京高専	中学生	15名								
12	八王子子ども体験塾	ハードウェア・ソフトウェアの基本を体験してみよう	情報工学とは、どのようなものかを理解するため、ハードウェアとソフトウェアのそれぞれについて実習を通じて理解する。ハードウェアについては、用意されたブレッドボードを用いた加算機の製作を行う。ソフトウェアについては、グラフィックソフトを題材に、モニタディスプレイ画面にプログラムという形を用いて図形を表示させる。それぞれ出来合いのものを利用して仕上げた後、ものづくりの楽しさを実験して科学技術に興味を持つことを目的とする。	2006	8	1	(火)	450 東京高専	中学生	15名								
13	電子工作入門		電子工作を通してものづくりの楽しさを実験してもらう(5~6年生)	2006	8	1	(火)	東京高専	小学生	8名								
14	もの作り体験教室	初級者のためのCAD/CAM体験	CAD/CAMの基本操作を体験し、CADでキーホルダーとスタンプのデザインをします	2006	8	1	(火)	東京高専	中学生	12名								
15	もの作り体験教室	初級者のためのCAD/CAM体験	CAD/CAMの基本操作を体験し、CADでキーホルダーとスタンプのデザインをします	2006	8	2	(水)	東京高専	中学生	12名								
16	八王子子ども体験塾	機械工学科メカニクス体験講座	・マイコンによるメカトロ体験 ・三次元座標測定 ・パソコンによる製図体験 ・F1カーの製作体験 ・網の引張試験	2006	8	4	(金)	東京高専	中学生	30名				M科黒崎				
17	八王子子ども体験塾	機械工学科メカニクス体験講座	・マイコンによるメカトロ体験 ・三次元座標測定 ・パソコンによる製図体験 ・F1カーの製作体験 ・網の引張試験	2006	8	25	(金)	東京高専	中学生	30名				M科黒崎				
18	八王子子ども体験塾	空気の液体を作ろう	地球上の生物にとって大切な空気。空気は思えないけれど酸素や窒素などが含まれていることはよく知られている。その空気の組成を下げた空気はどうなるか。実験を通して空気を液体にしたときどのようなものになるのか、その主成分である酸素や窒素は白色から赤へ変化する。具体的にはガラス管からガラス棒で反応容器をつくることから始める。液体用ガラス容器、空気導入管、シリカゲルなどを用意してつくってそれらを組み合わせて装置を作成する。液体用ガラス容器を液体窒素で冷却し、シリカゲルで脱色した空気を導入し、液体空気を観察させる。色を確認し、温度を測る。以上の実験を2日間かけて行い、最終日に発表会を開催して実験内容を報告する。	2006	8	21	(月)	東京高専	小学生	8名		2日間コース			C科阿久沢			
19	八王子子ども体験塾	空気の液体を作ろう	地球上の生物にとって大切な空気。空気は思えないけれど酸素や窒素などが含まれていることはよく知られている。その空気の組成を下げた空気はどうなるか。実験を通して空気を液体にしたときどのようなものになるのか、その主成分である酸素や窒素は白色から赤へ変化する。具体的にはガラス管からガラス棒で反応容器をつくることから始める。液体用ガラス容器、空気導入管、シリカゲルなどを用意してつくってそれらを組み合わせて装置を作成する。液体用ガラス容器を液体窒素で冷却し、シリカゲルで脱色した空気を導入し、液体空気を観察させる。色を確認し、温度を測る。以上の実験を2日間かけて行い、最終日に発表会を開催して実験内容を報告する。	2006	8	22	(火)	東京高専	小学生	8名		2日間コース			C科阿久沢			
20	八王子子ども体験塾	中学生のための電子工学科	ローテクからハイテクまでいろいろ電子工学の世界を紹介します	2006	8	28	(月)	360 東京高専	中学生	40名				D科小池				
21	八王子子ども体験塾	中学生のための電子工学科	ローテクからハイテクまでいろいろ電子工学の世界を紹介します	2006	8	29	(火)	360 東京高専	中学生	40名				D科小池				
22	電子工学科ロボット教室	1回目	LEGO社製のLEGO MINDSTORMSを用いてロボットの組み立てとパソコンを使った制御を体験	2006	9	30	(土)	東京高専	中学生	20名								
23	電子工学科ロボット教室	2回目	LEGO社製のLEGO MINDSTORMSを用いてロボットの組み立てとパソコンを使った制御を体験	2006	10	1	(日)	東京高専	中学生	20名								
24	なぜ?なぜ?数学教室	関数の反復とカオス	1回目	2006	11	5	(日)	東京高専	中学生	自由参加								
25	なぜ?なぜ?数学教室	関数の反復とカオス	2回目	2006	11	5	(日)	東京高専	中学生	自由参加								
26	理科特別授業	テーマ1「スーパーロボット」の組み立てと製作	スーパーロボットのロボットにモーターを取り付け、簡単なリモコン式のロボットを製作しながらそのしくみを学習する。	2006	9	28	(水)	190 新田小学校	小学4年生	3クラス分								
27	サイエンスパートナーシップ	物質の強さ(引張試験)	1回目	2006	11	9	(水)	鴻川中学校	鴻川中学校の1年生	15名(1班分)				1年生全員、MM教室などで東京高専のPR、ロボット、演習実験、TA(専任内訳等)の紹介、懇話	M科黒崎	4名		

資料B-1-①-2

津田広範室長・外部との関連のあるイベント一覧

2007/1/19現在

No.	名称	小講座名	紹介文	日程				場所	参加対象者	定員(人数)	予約	備考	内務預備			
				年	月	日	曜						所要時間(分)	担当	TA数	実施経費
28	サイエンス パートナーシップ	立体の切り口	1回目	2006	11	9	(水)	遠川 中学校	遠川中 学校の 1年生	15名 (1班分)		1年生全員、MM 教室などで東京 高専のPR、ロボ コン、展示実験、 TA(専修内容講 義等)の紹介、懇 親	E科松 井、 G科市川	4名		
29	サイエンス パートナーシップ	傘ラジオ	1回目	2006	11	9	(水)	遠川 中学校	遠川中 学校の 1年生	15名 (1班分)		LSICPUの構造、 仕組み	J科小池	4名		
30	サイエンス パートナーシップ	アルミの置物 (飾道)	1回目	2006	11	9	(水)	遠川 中学校	遠川中 学校の 1年生	15名 (1班分)		1年生全員、MM 教室などで東京 高専のPR、ロボ コン、展示実験、 TA(専修内容講 義等)の紹介、懇 親	実習工 場	4名		
31	サイエンス パートナーシップ	科学クイズ	1回目	2006	11	9	(水)	遠川 中学校	遠川中 学校の 1年生	15名 (1班分)		1年生全員、MM 教室などで東京 高専のPR、ロボ コン、展示実験、 TA(専修内容講 義等)の紹介、懇 親	C科菊池	4名		
32	サイエンス パートナーシップ	超伝導	1回目	2006	11	9	(水)	遠川 中学校	遠川中 学校の 1年生	15名 (1班分)		1年生全員、MM 教室などで東京 高専のPR、ロボ コン、展示実験、 TA(専修内容講 義等)の紹介、懇 親	C科阿久 沢、土屋	4名		
33	小学生科学講 座 「たまたまサイエ ンス」	第1回科学工 作 「傘ラジオ」	全々アルミホイルを使ってラジオを作ってみよう 電池がないのに聞こえるよ。知っておくと災害 のとき便利かも！	2006	11	11	(木)	消費生活 センター 講座室 (ベルブ永 山3F)	多摩市 在住・在 学の 小学4~ 6年生	20名	要	*参加費700円 *申込〆切11/1 (永山公園館の 窓口で直接申し 込み)	D科小池	東京 高専 の学 生数 名	主催 多 摩市立永 山公園館	
34	サイエンス パートナーシップ	物質の端さ (5)講義(秋)	2回目	2006	11	16	(水)	遠川 中学校	遠川中 学校の 1年生	15名 (1班分)		A班→E班	M科黒崎	4名		
35	サイエンス パートナーシップ	傘ラジオ	2回目	2006	11	16	(水)	遠川 中学校	遠川中 学校の 1年生	15名 (1班分)		F班	J科小池	4名		
36	サイエンス パートナーシップ	アルミの置物 (飾道)	2回目	2006	11	16	(水)	遠川 中学校	遠川中 学校の 1年生	15名 (1班分)		E班	実習工 場	4名		
37	サイエンス パートナーシップ	立体の切り口	2回目	2006	11	16	(水)	遠川 中学校	遠川中 学校の 1年生	15名 (1班分)		C班	E科松 井、 G科市川	4名		
38	サイエンス パートナーシップ	科学クイズ	2回目	2006	11	16	(水)	遠川 中学校	遠川中 学校の 1年生	15名 (1班分)		B班→D班	C科菊池	4名		
39	サイエンス パートナーシップ	超伝導	2回目	2006	11	16	(水)	遠川 中学校	遠川中 学校の 1年生	15名 (1班分)		D班→A班	C科阿久 沢、土屋	4名		
40	小学生科学講 座 「たまたまサイエ ンス」	第2回デザイン 工作 「七宝焼き」	同級生用いた有線七宝焼きにチャレンジ！オリ ジナルデザインのきれいなバッチが作れるよ！	2006	11	18	(金)	消費生活 センター 講座室 (ベルブ永 山3F)	多摩市 在住・在 学の 小学4~ 6年生	20名	要	*参加費800円 *申込〆切11/10 (永山公園館の 窓口で直接申し 込み)	G科大野	東京 高専 の学 生数 名	主催 多 摩市立永 山公園館	
41	エンジョイ・ ハンドボール	(第3回目)	生達スポーツとしてのハンドボールのゲームを 楽しむ	2006	11	26	(日)	東京高専	6*6*6~10	50~100名						
42	サイエンス パートナーシップ	物質の端さ (5)講義(秋)	3回目	2006	11	30	(水)	遠川 中学校	遠川中 学校の 1年生	15名 (1班分)		C班→E班	M科黒崎	4名		
43	サイエンス パートナーシップ	立体の切り口	3回目	2006	11	30	(水)	遠川 中学校	遠川中 学校の 1年生	15名 (1班分)		D班	E科松 井、 G科市川	4名		
44	サイエンス パートナーシップ	傘ラジオ	3回目	2006	11	30	(水)	遠川 中学校	遠川中 学校の 1年生	15名 (1班分)		A班	J科小池	4名		
45	サイエンス パートナーシップ	科学クイズ	3回目	2006	11	30	(水)	遠川 中学校	遠川中 学校の 1年生	15名 (1班分)		E班→F班	C科菊池	4名		
46	サイエンス パートナーシップ	アルミの置物 (飾道)	3回目	2006	11	30	(水)	遠川 中学校	遠川中 学校の 1年生	15名 (1班分)		B班	実習工 場	4名		
47	サイエンス パートナーシップ	超伝導	3回目	2006	11	30	(水)	遠川 中学校	遠川中 学校の 1年生	15名 (1班分)		F班→C班	C科阿久 沢、土屋	4名		
48	種科特別授業	テーマ② 「クリップモー タのしくみと製 作」	エナメル線で製作したコイルを使って簡単モー タを製作し、その動作の仕組みを学習する	2006	12	※※※		桐田 小学校	小学6年生	3クラス分						
49	エンジョイ・ ハンドボール	(第4回目)	生達スポーツとしてのハンドボールのゲームを 楽しむ	2006	12	3	(日)	東京高専	6*6*6~10	50~100名						
50	TOKYO- KOSEN ワクワク科学講 座	「高専ロボコン のデモンスト レーション」	今年度のロボコンは、トレイに乗せたオブジェを 落とさずに運ぶ競技です。オブジェ落とさない ようトレーニングの種子を別冊に載せてお返し します。当日、ワクワク走、種取り、をしま す。競技の終了後、デモンストレーションを行 います。	2006	12	13	(水)	駿南中 学校の 体育館 6*2年 生教室等				*生徒は事前に 受講講座を選択 しています。 *当日、講座上 に指定された場 所へ移動します。 *生徒は事前に 受講講座を選択 しています。 *当日、講座上 に指定された場 所へ移動します。	J科松林			
51	TOKYO- KOSEN ワクワク科学講 座	「挑戦！科学 クイズ」	5円玉を穴にあぶると6円玉の穴は、大きくな る？「テコの原理を使えば、野球のボールは、 遠くへ飛ばせる？」など、身近な事例を使った クイズを楽しみながら、実際に実験して確かめ て、その仕組みの秘密や原理を皆さんと一緒に 考えます。	2006	12	13	(水)	駿南中 学校の 体育館 6*2年 生教室等								

資料B-1-①-3

目指すはトップエンジニア
東京工業高等専門学校
公開講座・体験教室
<http://www.tokyo-ct.ac.jp/>

wakuwaku体験一緑の中でのものづくり

夏休みは東京高专にいこう！

イベント名	日程・開催時間	申込み期間	定員	内 容
電気工学科 ロボット教室 <small>八王子市子ども体験塾助成事業</small>	6/30(土)～ 7/1(日) 10:00～16:00	6/11(月)～ 6/15(金)	20名	ブロック玩具で有名なLEGO社製のLEGO MINDSTORMSを用いてロボットの組み立てとパソコンを使った制御を体験 
機械工学科体験講座 <small>八王子市子ども体験塾助成事業</small>	①8/4(土) ②8/5(日) 10:00～15:30	6/25(月)～	各回30名	①ロボット体験講座 ②光センサーを用いたロボット製作 ③エアシリンダーを用いた自動化技術 ④CAD体験 ⑤F1カーボン体験他 
電子工学科体験教室 <small>八王子市子ども体験塾助成事業</small>	①8/4(土) ②8/5(日) 10:00～13:00	6/18(月) ～7/6(金)	各回15名	簡単な電子楽器の回路製作 電子顕微鏡でミクロの世界を覗く 「傘ラジオ」の試聴など 
ときめき化学実験と 梶田の自然とのふれあい <small>八王子市子ども体験塾助成事業</small>	①8/4(土) ②8/5(日) 10:00～15:00	6/25(月) ～7/6(金)	各回20名	(1) 梶田の森の調査 (2) 木登りの極意 (3) 梶田のどうめん流し (4) ガラス細工 (5) 身近にあるものを使った化学実験など 

講座のお知らせは裏面にもあります。

(出典 総務課資料)

資料B-1-①-3

目指すはトップエンジニア
東京工業高等専門学校
公開講座・体験教室
<http://www.tokyo-ct.ac.jp/>

wakuwaku体験—緑の中でのものづくり
夏休みは東京高专にいこう!

イベント名	日程・開催時間	申込み期間	定員	内容
英語の辞書に親しもう —英文事読の楽しみ— 八王子市子ども体験塾助成事業	8/4(土)・5(日) 10:00~11:30	6/25(月)~ 7/13(金)	20名	無理なく読める楽しい本から始めて 英語の楽しさを体験しよう。 (1日でも可)
キーホルダー・スタンプの デザインを加工しよう 八王子市子ども体験塾助成事業	8/11(土)~ 8/12(日) 9:00~16:00	6/25(月) ~7/6(金)	15名	昨年の作品です
情報工学科体験教室	①8/25(土) ②8/26(日) 9:30~17:00	随時	各回15名	ハードとソフトの基本を理解 しよう
数学公開講座	11/4(日) ①11:00~12:00 ②13:00~14:30	なし	なし	①東京高专で学ぶ数学 ②数式処理ソフトMathematicaで 阿弥陀くじに強くなる

申し込み方法は企画によって異なります。詳細はホームページをごいただくか、お電話でお問い合わせください。

<http://www.tokyo-ct.ac.jp/>
 総務課企画係 042-668-5116



交通 京王線 狹間駅徒歩5分 めじろ台徒歩10分 JR中央線 高尾駅から徒歩20分 京王バス(ハ81)東京高专前

(出典 総務課資料)

資料B-1-①-4

一八王子市子ども体験塾一

夏休みは東京高専にいこう！ 小学生むけ体験教室(無料)のご案内

イベント名	日程・開催時間	対象	定員	内容	
英語の読書に親しもう -英大多読の楽しみ-	8/4(土)・5(日) 10:00~11:30	小学生~ (保護者同伴)	20名	無理なく読める易しい本から始めて英語の楽しさを体験しよう。(1日でも可)	
とさめき化学実験と 們田の自然とのふれあい	8/4(土) 8/5(日) 10:00~15:00	小・中学生	各日20名	1. 們田の森の調査 2. 木登りの極意 3. ガラス細工 4. 化学実験 両日とも同じ内容です	
ものづくり体験教室 (分光器)	8/11(土) 10:00~12:00	小学校高学年	10名	回折格子シートを用いた簡易分光器を製作し身近な光源のスペクトルを観察します	
ものづくり体験教室 (トレースカー)	8/11(土) 10:00~16:00	小学生 (5~6年)	親子8組	ライトレーザをつくります。作ったライトレーザは持ち帰りができます。	
風に向かって進むウィンドカーを作ろう	8/25(土) 10:00~12:00	小学生	20名	風に向かって進むウィンドカーをつくります。作ったウィンドカーは持ち帰りができます。	
暗号の仕組みを知ろう	8/25(土) 13:00~14:30	小学生 (4~6年)	20名	暗号の仕組みをゲーム感覚で学べます。作った教材は持ち帰りができます。	

ドキドキ！ ワクワク！
普段経験できないおもしろ体験がいっぱい！



申込方法

申込の方法は企画により異なります。詳細はホームページをご覧ください。総務課企画係にお電話でお問い合わせください。

ホームページ
<http://www.tokyo-ct.ac.jp>

総務課企画係
042-668-5116



(出典 総務課資料)

音階を考えよう

資料B-1-①-5

2006年2月8日(水) 19:57 改訂.

清藤 晃

目次

1	はじめに	1
2	協和する音程	1
3	三和音	3
4	純正律	4
5	平均律	4
6	Pythagoras 音律	6
7	純正律の命名法	8
8	どれがほんとうの音?	8
9	おわりに	12

1 はじめに

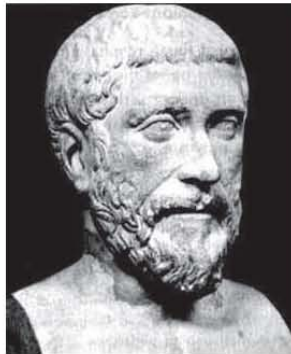



図1 Pythagoras of Samos (569 B.C.? - 475 B.C.?). 

音程を数の比として初めて捉えたのは、かの有名な Pythagoras であつたと言われていゝ。肉体に閉じこめられた魂を解き放ち、魂本来の調和の世界に導く

ものは音楽であり、その音楽の調和の根源は数であるというわけだ。

きょうは、Pythagoras に始まる音階の話中学生の皆さんにもわかるように、できるだけやさしくお話ししようと思います。ただ、どうしても少しだけ上級の数学が必要になります。それは、

- 三角関数
- 累乗根と指数関数, 対数関数

についてです。図も交えて直感的に説明しますので、細かいことはあまり気にしないで聴きください。

2 協和する音程

きょうの話では *Mathematica* というコンピュータ・ソフトを活用しています。これは世界中の研究者、学生などが使っているすばらしい科学技術計算用のソフトウェアです。様々な機能が盛りだくさんですが、指定された波形の音を出力する機能もあります。これを使ってドレミファの音階を聴いてみます。まず基本となる音ですが、ピアノの鍵盤の中央近くにあるハ長

(出典 公開講座資料から抜粋)

資料B-1-①-5



東京工業高等専門学校

参加費無料

情報工学科公開講座

日時 2006年7月31日(月), 8月1日(火)
9時30分～17時
7月31日も8月1日も同じ内容です。
都合の良い日を指定してお申し込み下さい。

場所 東京高専 情報工学科棟

定員 31日, 1日, それぞれ15名(合計30名)

- 主な内容(1日コース)
- 情報工学科の教育内容, 進路状況等紹介
- コンピュータのハードウェアとソフトウェア体験



お申し込み

東京高専 情報工学科 公開講座と学科公開のページより,
申し込みフォームをクリックして申し込み下さい。7月25日締切。
<http://www2.tokyo-ct.ac.jp/~j/open/>

お問い合わせ:情報工学科 松林勝志

公開講座とは別に7月23日(日), 9月24日(日),
12月2日(土)の学校説明会に会わせて, 学科公
開を実施します。(こちらは事前申し込み不要)



(0426)68-5170

e-mail: matsu@tokyo-ct.ac.jp

(出典 公開講座パンフレット)

資料B-1-①-5



八王子市こども体験塾

参加費無料

情報工学科ものづくり教室

「風に向かって進むウインドカーを作ろう」(10:00-12:00)

「暗号の仕組みを知ろう」(13:00-14:30)

(製作したウインドカー、暗号の教材は持ち帰りできます)

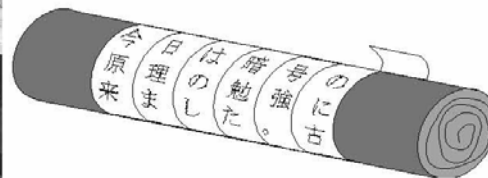
開催日 7月23日(日)

場所 東京高専 情報工学科棟

定員 小学生(各20名)



今原来代利し日理ま人用てはのしもしい
暗勉た暗てま号強。号通しのに古を信た



お申し込み

東京高専 情報工学科 公開講座と学科公開のページより、
申し込みフォームをクリックして申し込み下さい。

<http://www2.tokyo-ct.ac.jp/~j/open/>



お問い合わせ:情報工学科 松林勝志

(0426)68-5170

e-mail: matsu@tokyo-ct.ac.jp

(出典 体験教室パンフレット)

資料B-1-①-5

やってみたいこと
いっぱい!

はちおうじし こ たいけんじゆく
八王子市の子ども体験塾

保護者のみなさんへ

八王子市子ども体験塾は「多摩・島しょ子ども体験塾」の助成制度により実施するものです。

八王子市は子どもの体験に関する取組みを応援していますが、ここでは今年さまざまな団体が行う予定の体験塾の活動をご紹介します。

なお活動へのお申し込み、お問い合わせは各団体の連絡先までお願いします。



このリーフレットについてのお問い合わせは
八王子市子ども家庭部子ども政策課
Tel. 042-620-7391 / FAX 042-627-7776
E-mail b081900@city.hachioji.tokyo.jp

平成18年7月20日発行

(出典 八王子子供体験塾パンフレット)

資料B-1-①-5



東京家政学院大学その1

夏休みに大学で遊ぼう！学ぼう！

- ①自然の中で冒険・キャンプしよう
- ②人形劇と工作で遊ぼう
- ③手話で遊ぼう
- ④音楽で遊ぼう
- ⑤子育ての相談

8/4 (金) 9:30~12:30

東京家政学院大学 町田キャンパス
(町田市相原町 2600)

■対象 幼児・小学校低学年の子どもと保護者 200名(申込多数の場合は抽選)

■参加費 500円(保険料など)

■申し込み・お問い合わせ

住所・氏名・年令・電話番号・学校名・学年を記入し、下記のいずれかで申込。

- ①電話 042-782-9811 (東京家政学院大学)
- ②電話 042-782-0927 (児童学科)
- ②E-mail tajiri@kasei-gakuin.ac.jp

多摩美術大学

日本の美術に興味津津—絵巻物をつくろう (小学生対象講座)

8/1 (火) 10:00~15:00

多摩美術大学八王子キャンパス (八王子市鎌水 2-1723)

■対象 小学生 50名(申込多数の場合は抽選)

■申し込み

資料請求の上、ハガキに住所・氏名・電話番号・学校名・学年を、7/21 までに

〒158-8558 東京都世田谷区上野毛 3-15-34 多摩美術大学生涯学習センターまで

■お問い合わせ

電話 03-3702-9868
FAX 03-3702-9874

東京家政学院大学その2

①みなみ野の竹でドームをつくろう! 8/5 (土)・6 (日)

②みなみ野の土で花壇をつくろう! 9/2 (土)・3 (日) 9:30~12:00

①②とも2日間連続です。八王子みなみ野シティ9大街区緑地及び隣地(七国四丁目)

■住所・氏名・電話番号・学校名・学年を記入の上、下記のいずれかで申込。

- ①FAX 042-782-4948
- ②E-mail sugimoto@kasei-gakuin.ac.jp
- お問い合わせ
- ①東京家政学院大学
電話 042-782-9811
- ②杉本研究室
電話 042-782-4948



東京工業高等専門学校

- ① メカトロニクス体験 8/4(金)・8/25(金) (2回)
- ② 電子工学科体験教室 8/28(月)・8/29(火) (2回)
- ③ 暗号の仕組みを知ろう 7/23(日)
- ④ 風に向かって進むウィンドカーを作ろう 7/23(日)
- ⑤ ハードとソフトの基本を理解しよう 7/31(月)・8/1(火) (2回)
- ⑥ 空気の液体を作ろう 8/21(月)・8/22(火)
- ⑦ ときめき化学実験 7/26(水)・7/27(木)
- ⑧ 英文多読の楽しみ 7/24(月)・7/25(火)

東京工業高等専門学校(八王子市栢田町 1220-2)

■対象 小・中学生(申込多数の場合は抽選)

■参加費 無料

■申し込み

東京高専HPに掲載しています。

HP <http://www.tokyo-ct.ac.jp/>

■お問い合わせ

庶務課研究協力担当
電話 042-668-5935



法政大学

夏の大学たんけん隊～みんなであそぼう緑のキャンパス 2006

8/8 (火) 法政大学多摩キャンパス

■対象 市内小学生とその保護者 150名(申込多数の場合は抽選)

■参加費 無料

■申し込み

住所・氏名・年令・電話番号・学校名・学年を記入し、下記のいずれかで申込。

- ①ハガキ 〒194-0298 東京都町田市相原町 4342 法政大学現代福祉学部棟 高橋利一研究室宛て
- ②FAX 042-783-2824 (高橋利一研究室宛て)

■お問い合わせ 現代福祉学部高橋ゼミ次世代育成計画実行委員会 実行委員長 小川菜穂子

042-783-2831 (高橋利一研究室)

HP <http://www.geocities.jp/tankentai88/>

東京薬科大学

子ども体験型スペシャルオリエンテーリング

11/3日(金)~11/5日(日)

東京薬科大学

(八王子市堀之内 1432-1)

■対象 市内幼稚園・小学生(保護者も可)

■申し込み

当日会場にて受付。

■お問い合わせ

電話 042-676-6676 (東薬祭運営委員会)

042-676-8978 (学生課・トビサ・事務課)

(出典 八王子子供体験塾パンフレット)

資料B-1-①-5

**知っていますか？
「こども育成計画」**

八王子市は平成17年度から「子どもが健やかに生まれ、かつ、育成される環境の整備」の視点から、子育てしやすいまちナンバーワンを目指してこども育成計画をすすめています。



**子ども自然体験活動
実行委員会**

自然体験・自然観察会～里山の四季を観に行こう！

8/19、11/18、2/25（土）
10:00～15:00

旧稲荷山小（八王子市寺田町）周辺の雑木林・田畑

■対象 小学生 定員30名（抽選）

■申し込み
8/19 実施分については住所・氏名・年齢・電話番号・学校名・学年を電話かFAXで、7/31（月）までに生涯学習総務課へ
電話 042-620-7333
Fax 042-626-8554

チャイルドサポート八王子

子ども農業体験塾

7～12月

七国地区（予定）



■対象 小学生30名（申込多数の場合は抽選）

■申し込み・お問い合わせ
電話 090-4622-6450 吉永



安全ネット八王子

「コミュニケーション体験塾」

8/21（月）13:00

クリエイティブホール11F 視聴覚室

■対象 市内小中・高校生及びその保護者120名（先着順）

■申し込み

住所・氏名・年齢・電話番号・学校名・学年を記入し、下記のいずれかの方法で申込。

①FAX 042-642-0012

②E-mail imerikko@rose.ocn.ne.jp
安全ネット八王子（石川）

■お問い合わせ

電話 090-9370-0175（木村）



子どもたちの感性を磨く芸術・文化体験、驚きと夢を与え未知への扉を開く科学体験、豊かな自然や人々とのふれあいを通じた様々な感動体験を提供し、次世代を担う子どもたちを育みます。シンボルマークのはじける豆は、「元気な子どもたちが様々な体験を通して多くのことを吸収し、空に向かってすくすく伸び、才能を開花させる」という期待感をイメージしています。

どんぐり分校

子ども体験ひろば「どんぐり分校」

みんなで小山内裏公園に集まろう！！

①「キャンプファイアー」 8/26（土）

（雨天中止）

■対象 幼児～高校生（大人の方も歓迎します）

■参加費 無料

■申し込み 不要。直接現地へ！

■当日の問い合わせ

都立小山内裏公園パークセンター
町田市小山ヶ丘4-4

TEL042-676-8865

※公園へのお問い合わせは当日のみでお願いします。

②子育てサロン「ゆうゆうクラブ」
毎週水曜日 10:00～11:30

■対象 乳幼児とその保護者

■申し込み 不要。直接現地へ。

八王子・子どもの居場所づくりプロジェクト

①演劇表現体験ワークショップ

7/17（祝）いちょうホール展示室 9/17（日）柏木小学校体育館

②ニューススポーツ体験塾（タグラグビー、スナッグゴルフ、ネオテニス、ドッチビーなど）7月、10月、11月、12月 各地小学校、公園

③冒険遊び場体験塾

9月：松が谷公園、10月：蓮生寺公園、11月：下柵木小学校

④レッツ・ロックバンドフェスティバル

1/14（日）南大沢文化会館交流ホール

■お問い合わせ： 042-674-0769

E-mail office@tamari-ba.jp

HP http://tamari-ba.jp/



（出典 八王子子供体験塾パンフレット）

資料B-1-①-5

その他こんな活動もあります。

① 工学院大学

わくわくサイエンス祭 大学の先生と楽しむ理科教室
 8/19(土)20(日) 工学院大学八王子キャンパスほか
 ■対象 小・中・高校生及びその保護者、学校教員など
 (小学校低学年は保護者同伴)
 ■参加費 無料 自由参加(入場制限あり)
 ■問い合わせ
 工学院大学「理科教室」事務局
 八王子キャンパス(八王子教務課) 042-628-4883
 新宿キャンパス(広報部) 03-3340-0126
 理科教室テレフォンサービス 03-3340-0246~7
 HP <http://www.kogakuin.ac.jp/rikak/>
 ※当日は筆記用具とメモ帳を持ってきてください。

② 小中学生向けプログラミング教室

7~3月 こども科学館(予定)
 ■対象 小・中学生
 ■申し込み 問い合わせ
 「首都圏情報産業特区・八王子」構想推進協議会
 (サイバーシルクロード八王子)
 産業政策課 電話 042-620-7379



市も体験塾に
 取り組んでいます。

教育委員会

人生の先輩に学ぶ
 8月~11月(予定)
 市民会館、市内各中学校
 ■対象
 市内中学生2年生
 ■申し込み・お問い合わせ
 学校教育部指導室
 電話 042-620-7405

八王子市立児童館

中高生が企画をし、体験活動に取組みます。
 ①中・高校生企画事業体験7~12月
 松が谷、南大谷、浅川、元八王子、由木、中野、北野 各児童館
 ※8/6、9/3(日)16時~ 「和太鼓体験」 由木児童館
 ②卓球大会9/2(土)10:00~ 子安市民センター
 ③ボードカードゲーム体験広場10/29(日)10:00~ 北野市民センター
 ④児童館中高生フェスティバル 12/3(日)10:00~ クリエイトホール
 各児童館の体験事業の発表、ダンス、演奏、パフォーマンスなど、自己を表現するためのステージ発表や活動の記録を展示します。出演希望者は10月下旬までに中野・南大谷各児童館まで。当日の観覧は自由です。
 ■対象 市内中学生、高校生 ■費用 無料
 ■申し込み・お問い合わせ こども家庭部児童青少年課 電話 042-620-7246(児童青少年課)
 松が谷児童館 電話 042-675-0151 南大谷児童館 電話 042-645-0482
 浅川児童館 電話 042-665-2506 元八王子児童館 電話 042-625-6484
 由木児童館 電話 042-676-8713 中野児童館 電話 042-624-9559
 北野児童館 電話 042-645-8580

おまけ

夏休み 市の施設で体験してみよう (詳しくは各施設までお問い合わせください)

- ・サイエンスドーム八王子(こども科学館) 大横町9-13 Tel. 624-3311 大人¥700 こども¥250
 HP <http://www.edu.city.hachioji.tokyo.jp/sciencedome/index.htm>
- ・郷土資料館 上野町33 Tel. 622-8939 入園料は無料です。
 HP <http://homepage3.nifty.com/hachioji-city-museum/>
- ・タやけ小やけふれあいの里 上恩方町2030 Tel. 652-3072 大人¥200 中学生以下¥100 4歳未満は無料 HP <http://www.hachioji-kankokyokai.or.jp/yuyake/yuyakekoyake.htm>

(出典 八王子子供体験塾パンフレット)

資料B-1-①-5

夢・化学-21 化学への招待「高専化学実験体験事業」

国立東京工業高等専門学校 物質工学科

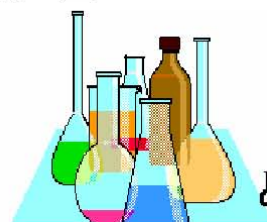
公開講座

共催：化学工学会「夢・化学-21」委員会

とき：平成17年7月29日（金）、30日（土）

午前9時30分～午後4時（弁当持参）

ところ：東京高専物質工学科実験室



ときめき化学

両日とも同じ内容ですので、どちらかの日にちを選んでください。

☆☆ ☆☆ 対象：中学生（定員30名） ☆☆ ☆☆ 参加費 無料 ☆☆ ☆☆

— 化学の不思議と魅力を体験しよう —



昨年度の実験の様子

野菜の赤色素でTシャツを染める

1 カラフルチョーク

—アナタのセンスに期待

炎が緑のローソク

2 天までとどけ！

ワタシのナイロン

紙おむつに魔法の粒

キミは魔力をうちやぶれるか

3 自分でスライムを作ろう

—光をあてると色が変わるぞ！！

電気で色が変わる 透明電極

申し込み・問い合わせ

往復ハガキ（1人1枚）に、氏名・学校名・学年・住所・電話番号および保護者署名捺印の上、東京高専「公開講座—ときめき化学実験」あてに申し込んでください。

締め切り — 7月22日消印有効

193-0997 八王子市栢田町1220-2

問い合わせ： TEL 0426-68-5935（青山） 又は 5867（城石）

FAX 0426-68-5090 電子メール chiiki@tokyo-ct.ac.jp

（出典 公開講座パンフレット）

資料B-1-①-6

平成16年度八王子市夏季パワーアップ研修会(中学校・理科) at 東京高専 27 July 2004

2004. 7. 26

日程

日 程	内 容	場 所
7月27日(火) 9:30~12:00	講演: 横井 杉並区立東原中学校主幹 昼食	2AV 学生食堂
12:00~12:50		
13:00~13:30	東京高専学校紹介: 小坂 副校長	2AV
13:40~14:40	①実験・実習(1時間) 物理科(max20人)	電子工学科(max40人) 情報工学科(max15人)
14:40~15:00	休憩・実習室移動	
15:00~16:00	②実験・実習(30分~60分) 機械工学科(max10人)、電気工学科(max40人)、物質工学科(max40人)	

研修内容(午前)

担当: 横井 先生 内容: (1)磁力量を見る(2)ペットボトルモーター(3)湿度計を作る

研修内容(午後)

学 科 名・教 科 名	物 理	機 械 工 学 科	電 気 工 学 科	電 子 工 学 科	情 報 工 学 科	物 質 工 学 科
テ ー マ	音の波をみる	温度測定の基本	電気回路シミュレーション	電子計測の研修	音の信号の分析	学生の実験に取り組んでいる姿
内 容	ワイングラスをこすつて音を出し、グラスに張り付けた鏡に光を当ててグラスの振動を音の波として観測する。	熱電対製作実習、沸騰伝熱実験	数値演算ソフトMatlabにより電気回路のシミュレーションを行う	電子計測機器による電子工学の基礎的な計測体験	パソコン及びフリーソフトウェアを用いた音の信号の周波数分析	3年創造実験(ネオアルケミスト)および5年卒研(研究室全開)に取り組んでいる姿を直接肌で感じてもらう。(興味があれば直接学生と議論が出来ます。)
所要時間(30分または1時間)	1時間	講義、実習で約30分~60分	30分	1時間	1時間	30分
受 入 最 大 人 数	10人~20人	10人	40人	40人	15人	40名
担 当 者 名	潮 教授	筒井助教授	松井助教授	小池教授	吉本助教授・西村助手	菊地助教授、土屋助教、庄助教授、中野助手
場 所 (集 合 場 所)	物理実験室	メカトロニクス実験室	エネルギー変換実験室	電子工学科3階実験室	7408号室(コンピュータ演習室1)	5C教室

(出典 総務課資料)

観点B-1-②： サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。また、改善のためのシステムがあり、機能しているか。

(観点に係る状況)

公開講座、出前授業、体験入学などの企画の参加者数は、ほとんどの企画において、前掲の資料B-1-①-2の定員の人数が参加しており、応募者数は定員を大きく上回っている。また、公開講座等に関しては、受講者に対して満足度に関するアンケートを総務課で集計している(資料B-1-②-1)。更に、企画によっては、企画の内容に関する詳細なアンケートを実施しており(資料B-1-②-2)、そこで出た意見を参考にして改善を図っている仕組みになっている。満足度等に関するアンケート結果は非常に好評であり、活動の成果が上がっていると言える。

(分析結果とその根拠理由)

公開講座・出前授業・体験入学・その他の企画に対する参加状況および、アンケート結果は非常に好評であり、活動の成果は上がっている。企画によっては独自に詳細なアンケートを実施しており、その結果をもとに、更なる改善を図るシステムになっている。

以上により、サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっている。また、改善のためのシステムがあり、機能している。

資料B-1-②-1

平成18年度 高等専門学校公開講座等実施状況及び満足度調査

学校名	東京工業高等専門学校
担当者氏名	総務課研究協力係・高成
所属・役職等	
電話番号	042-608-5935
E-MAIL	kenkyo@tokyo-ct.ac.jp

学校番号	学校名	講座名	種別	開設時期			総開設期間数	受講対象者	受講料	受講定員	受講者数	有効回答者数(A)	左の内満足回答者数(B)	満足率(B/A)	備考
				年	月	日									
16	東京	電気工学科ロボット教室		18年	9月	30日	10	中学生	無料	20	17	17	100.0%	2日間	
16	東京	情報工学科公開講座		18年	7月	31日	13	中学生	無料	30	33	33	100.0%	各日	
16	東京	夢化学-21と夢めき化学実験		18年	7月	28日	8	中学生	無料	60	26	24	83.3%	各日	
16	東京	もの作り体験教室初心者のためのCAD/CAM講習		18年	8月	1日	12	中学生	無料	12	15	15	100.0%	2日間	
16	東京	機械工学科メカトロニクス体験講座		18年	8月	4日	10	中学生	無料	60	49	48	97.9%	各日	
16	東京	中学生のための電子工学科体験教室		18年	8月	23日	8	中学生	無料	80	58	57	100.0%	各日	
16	東京	なぜ?なぜ?数学教室		18年	11月	5日	3	中学生	無料	なし	21	21	100.0%		
16	東京	電子工作入門		18年	8月	1日	5	小学生	無料	8	10	10	100.0%		
16	東京	英文多読の楽しみ		18年	7月	24日	3	小学生以上	無料	10	8	8	100.0%	2日間	
16	東京	風に向かって進むウィンドカーを作る		18年	7月	23日	2	小学生	無料	20	22	21	100.0%		
16	東京	番号の仕組みを叩ろう		18年	7月	23日	2	小学生	無料	20	19	19	100.0%		
16	東京	とせめき化学実験		18年	7月	25日	8	小学生	無料	30	22	22	100.0%	各日	
16	東京	空気の液体を作る		18年	8月	21日	8	小学生	無料	8	7	7	100.0%	2日間	
		エンジョイ・ハンドボール		18年	6月	3日	24	一般	無料	150名程度	501			6/3, 6/4, 11/26, 12/3	

(出典 総務課資料)

資料B-1-②-2

公開講座「英文多読の楽しみ」 2006年7月24日、25日開催

講師 竹田 恒美、堀 智子

延べ参加者 13名

参加者内訳 24日 7名 (小学生2名、中学生4名、母親1名)
25日 6名 (小学生1名、中学生3名、母親2名)

アンケート集計結果 25日の6名対象

1 性別	男 女	2名 4名
2 年代	小学生 中学生 社会人	1名 3名 2名
3 住所	八王子市内 八王子市外	5名 1名
4 この講座を何で知ったか	八王子市からの広報 高専ホームページ 母親から	2 3 1
5 「英文多読」という言い方を知っていたか	知っていた 知らなかった	1 5
6 図書館の英語の本は気に入ったか	大変気に入った	6
7 読もうとした英語の本は易しかったか	どちらかと言えば易しかった どちらともいえない どちらかと言えば難しかった	3 1 2
8 今後取り上げて欲しいテーマは	英会話 小学生対象の入門英語	2 1
9 講座は満足できたか	大変に満足した	6
10 その他、気づいた点	この講座が気に入ったので、 もっと続けたい(小学生) 市の広報にも載せて欲しい	1 1

(注) 中学3年生が2名参加した。川口市と仙台市からの参加で、どちらも前日行われた学校説明会と組み合わせたの参加だった。特に仙台市から参加した生徒にとっては、都合のよい日程

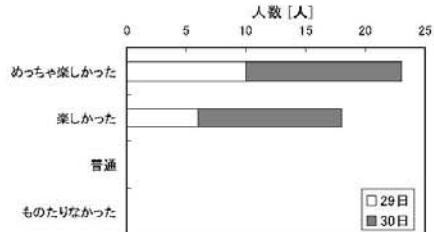
(出典 総務課資料)

資料B-1-②-2

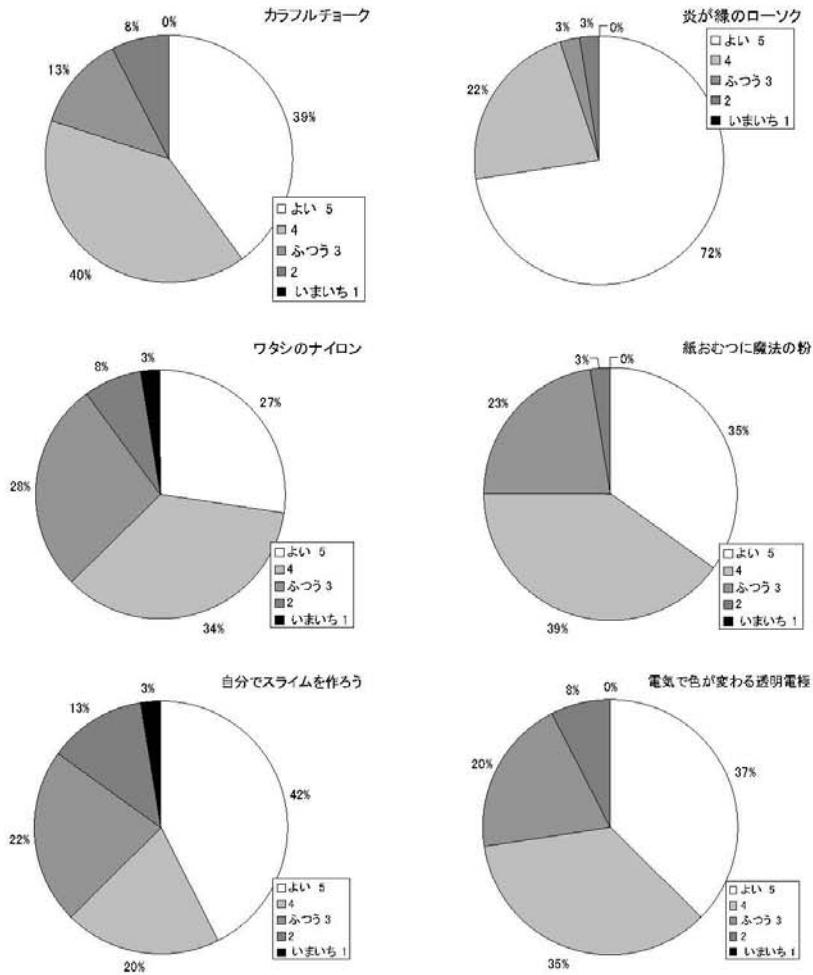
2005年度ときめき化学実験アンケート集計

2005年度「ときめき化学実験」アンケート集計結果(概略版)

1. 今日の実験の全体的な感想は?



2. どの実験が良かったですか

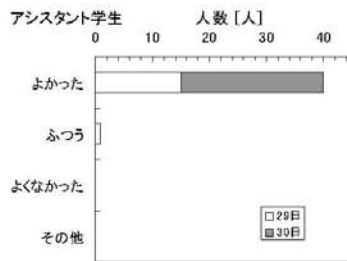


資料B-1-②-2

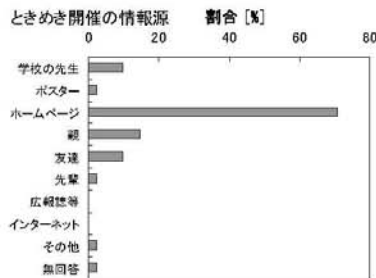
2005年度ときめき化学実験アンケート集計

	平均
カラフルチョーク	4.02
炎が緑のローソク	4.54
天までとどけ！ワタシのナイロン	3.68
紙おむつに魔法の粉	3.98
自分でスライムを作ろう	3.78
電気で色が変わる透明電極	3.93

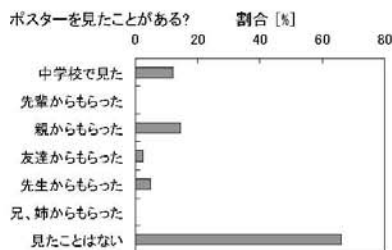
3. アシスタントのお兄さんお姉さんはどうでしたか？



4. ときめき化学実験の開催をどうして知りましたか？



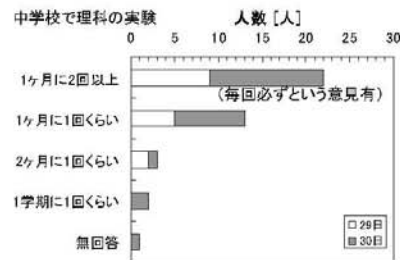
5. ときめき化学実験のポスターかチラシを見たことがありますか？



6. 今後やったらいいと思う実験があったら書いて下さい。

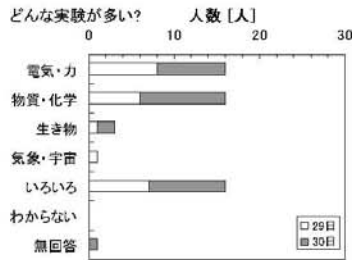
- ・今回とったナイロンをなにか薬品で染める
- ・炎が緑のローソク
- ・カラフルチョーク
- ・液体窒素 (3名)
- ・ヘリウム (2名)
- ・塩素の実験
- ・硫黄の実験
- ・酸化や化合など
- ・力学
- ・生物・地学系
- ・ミジンコの実験
- ・炎色反応のやつで もっと色をたくさんできたらよかったと思う
- ・ガラス細工づくり
- ・花火
- ・香水
- ・自作ロボットを作ろう
- ・2つのやわらかい物質を化合して 固い物質を作る
- ・シャープペンシルをフィラメントのかわりにして電球をつくる

7. 中学校で理科の実験は平均どのくらいやっていますか？

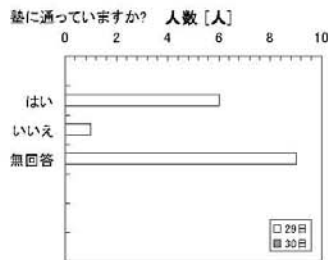


2005年度ときめき化学実験アンケート集計

8. 中学校ではどんな実験が多いですか？



(欄外) 塾に通っていますか？



9. 「ときめき化学実験」の全体の感想について書きたいことがあったら書いてください

29日

- ・アシスタントの方も先生方も優しく接して下さったし、とてもいい実験もできたのでよかったです。よい経験になりました。
- ・アシスタントの人とか、先生方の感じがとても良かったです。とても楽しかったです。ありがとうございました。
- ・とっても楽しかった！高倉さんサイコー！
- ・実験たのしかったです！ありがとうございました。
- ・解りやすく楽しかった。
もう少し長い時間やってたかった。
高倉先輩がよかった。おもしろい。
- ・スタッフの人もおもしろかったし、実験内容も楽しかった。
- ・とても楽しかったのと同時に、ビックリすることがたくさんあった。とてもいい体験になった。
- ・とても楽しくてためになりました。ありがとうございました。
- ・とてもとても楽しかったです。言うことなしです!!
また来たいです。
- ・すごく楽しかったのでまた来たいです。

休憩時間が長いような気がします。

- ・楽しかったので入りたいと思いました。
- ・想像してたよりずっと楽しい実験で、ずっと明るい雰囲気
の学校で、入りたいと思ってきました。
- ・よかったと思う。
- ・思ったより楽しく、ためになる実験だった。
- ・ほとんどの実験がおもしろくできました。
- ・実験室が暑かったのはつらかったです。
- ・とても楽しい実験がたくさんあって、来てよかったと思う。

30日

- ・けっこうたくさんさんのジャンルの実験ができてすごくよかった
と思う。
光や植物などのこまかな説明がよかったし、スライムを
作ったのも楽しかった。またこのような実験などがあつた
ら、ぜひ参加させてほしい。
- ・楽しかった。
- ・知らなかった化学式、実験器具などを教えてもらったり、
触れさせてくれたので、とても分かりやすく、楽しかったで
す。この高校には、絶対入りたいと思いました。
- ・とても楽しい実験だったけど、もう少し時間を短くしたほう
が良いと思う。
- ・1つ1つの実験がとても面白かったし、先生方、アシスタ
ントの人達もやさしく教えてくれて楽しく化学実験に触れるこ
とができたので、とてもこの1日楽しかったです。
- ・化学に楽しく触れることができたので面白かった。
理由までくわしく説明してくれて、良く理解することができ
た。
- ・中学校では6人ですするような実験を、1人か2人の少人数
でできて、とてもよかった。
- ・とても楽しくて勉強になりました。
- 今度来る機会があつたら迷わないようにがんばります(笑)
- ・もっと楽しい
- ・普段できない体験ができたのでよかったです。
高倉先輩がおもしろかった。
- ・とても楽しく勉強になりました。また次も来たいです。
- ・全体を通して、知らない事がいろいろあつて化学のことが
わかってよかったです。ためになった。
- ・実験室の天井がアスベストっぽかった。
実験室と休む場所の温度差がけっこう大きかった。
- ・すごく楽しくていい勉強になりました。
- ・また来たい。
- ・中学校ではやらないことをやって、とてもおもしろかったで
す。来年もまた来たいです。
- ・楽しくとてもよかったと思う。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 公開講座、体験教室、出前授業等は数多く実施されており、受講者数および満足度から判断して、非常に好評である。
- ・ 公開講座、体験教室等は年間計画を立てて毎年計画的に実施されている。
- ・ 中学校理科教員に対するパワーアップ研修も実施されており、非常に好評である。

(改善を要する点)

- ・ 特になし。

(3) 選択的評価事項Bの自己評価の概要

公開講座等に関する規定に従って、公開講座、出前授業、体験教室などが、計画的に実施されている。その他、中学校の理科教員に対して理科実験などの指導も行っている。また公開講座、体験教室などは年度ごとに計画を立てて実施している。

参加者数、満足度等のアンケートから判断して、過去の実施状況として、これらの企画は非常に好評であり、活動の成果は上がっている。また、それぞれの企画独自のアンケート等により、更なる改善を図る仕組みになっている。

以上により、教育サービスの目的に照らして、正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施され、サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっているといえる。

(4) 目的の達成状況の判断

- ・ 目的達成の状況は、非常に優れている。

